国語国文学科専門科目（令和６年度入学生用）

		科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	開放
基幹科目		10010		国文学概論	②	30	1	後期	佐々木紀一	○		教養
		10020		国語学概論	2 ②	30	1	後期	山本　淳	○		教養
		10022		日本語教育概論	2	30	1	前期	小峰　克之			教養
		10060		古典文学史	2 ②	30	1	前期	佐々木紀一	○		教養
		10070		近現代文学史	2	30	1	後期	奥村　華子	○		教養
基礎科目	共通			古典文学基礎演習ＩＡ	2	30	1	前期	岩原　真代		本年度開講せず	
				古典文学基礎演習ＩＢ	2	30	1	後期	岩原　真代		本年度開講せず	
		10121		古典文学基礎演習ⅡＡ	2	30	1	前期	齋藤　奈美			
		10122		古典文学基礎演習ⅡＢ	2	30	1	後期	齋藤　奈美			
		10131		古典文学基礎演習ⅢＡ	2	30	1	前期	佐々木紀一			
		10132		古典文学基礎演習ⅢＢ	2	30	1	後期	佐々木紀一			
		10143		近現代文学基礎演習ＩＡ	2 ④	30	1	前期	奥村　華子		原則として同一科目名のＡＢをセットで（ＡとＢとで担当者が同一のものを）履修すること	
		10144		近現代文学基礎演習ＩＢ	2	30	1	後期	奥村　華子			
		10151		近現代文学基礎演習ⅡＡ	2	30	1	前期	今井　瞳良			
		10152		近現代文学基礎演習ⅡＢ	2	30	1	後期	今井　瞳良			
		10163		国語学基礎演習Ａ	2	30	1	前期	山本　淳			
		10164		国語学基礎演習Ｂ	2	30	1	後期	山本　淳			
		10173		日本語教育論基礎演習Ａ	2	30	1	前期	小峰　克之			
		10174		日本語教育論基礎演習Ｂ	2	30	1	後期	小峰　克之			
		10181		論理と表現	2	30	1･2	前期	今井　瞳良			教養
		10560		日本語文書・表現プログラム	2	30	1	集中	田中　宣廣	○	前期開講（8～9月）	
	日本古典文学			古典文学講読Ⅰ	2	30	1･2	前期	岩原　真代		本年度開講せず	
		10221		古典文学講読Ⅱ	2	30	1･2	前期	齋藤　奈美			
		10231		古典文学講読Ⅲ	2	30	1･2	前期	佐々木紀一			
		10241		古典文学作品研究Ⅰ	2	30	1･2	集中	千野　裕子		後期開講（2～3月）	
		10251		古典文学作品研究Ⅱ	2 ②	30	1･2	後期	齋藤　奈美			
		10261		古典文学作品研究Ⅲ	2	30	1･2	後期	佐々木紀一			
		10271		古典文学特講Ⅰ	2	30	1･2	集中	千野　裕子		前期開講（8～9月）	
		10281		古典文学特講Ⅱ	2	30	1･2	後期	石黒　志保			
		10291		古典文学特講Ⅲ	2	30	1･2	前期	佐々木紀一			
	日本近現代文学	10411		近現代文学講読Ⅰ	2	30	1･2	後期	千葉　正昭			
		10421		近現代文学講読Ⅱ	2	30	1･2	前期	今井　瞳良			
		10431		近現代文学作品研究Ⅰ	2	30	1･2	前期	奥村　華子			
		10441		近現代文学作品研究Ⅱ	2 ②	30	1･2	後期	今井　瞳良			
		10451		近現代文学特講Ⅰ	2	30	1･2	前期	千葉　正昭			
		10461		近現代文学特講Ⅱ	2	30	1･2	後期	今井　瞳良			
	国語学と日本語教育	10512	10514	音声表現法Ａ	2	30	1	前期	山本　淳	②	いずれか一つ履修	
		10512	10515	音声表現法Ａ					小峰　克之			
		10513	10516	音声表現法Ｂ	2	30	1	後期	山本　淳	②	いずれも「音声表現法A」を既修のこと	
		10513	10517	音声表現法Ｂ					小峰　克之		いずれか一つ履修	
		10532		国語資料講読	2 ②	30	1･2	前期	山本　淳			
		10550		国語学特講	2	30	1･2	前期	山本　淳			
		10561		日本語文化論	2	30	1･2	前期	小峰　克之			
		10562		日本語運用スキルアップゼミ	2	30	1･2	後期	小峰　克之		（日本語検定２級合格相当）	
	漢文学	10600		漢文学概説	2	30	1･2	前期	渡部東一郎	○		
		10611		漢文学講読	2	30	1･2	前期	渡部東一郎			
		10621		漢文学作品研究	2	30	1･2	後期	渡部東一郎			
		10631		漢文学専門ゼミⅠ	2	30	1	後期	渡部東一郎			
				漢文学専門ゼミⅡ	2	30	2	前期	渡部東一郎			
		10650		漢文学特講	2	30	1･2	後期	渡部東一郎			
展開科目	共通			古典文学演習ＩＡ	2	30	2	前期	岩原　真代		本年度開講せず	
				古典文学演習ＩＢ	2	30	2	後期	岩原　真代		本年度開講せず	
				古典文学演習ⅡＡ	2	30	2	前期	佐々木紀一			
				古典文学演習ⅡＢ	2	30	2	後期	佐々木紀一			
				近現代文学演習ＩＡ	2	30	2	前期	千葉　正昭			
				近現代文学演習ＩＢ	2	30	2	後期	千葉　正昭			
				近現代文学演習ⅡＡ	2	30	2	前期	今井　瞳良		原則として同一科目名のＡＢをセットで（ＡとＢとで担当者が同一のものを）履修すること	
				近現代文学演習ⅡＢ	2 ④	30	2	後期	今井　瞳良			
				国語学演習Ａ	2	30	2	前期	山本　淳			
				国語学演習Ｂ	2	30	2	後期	山本　淳			
				日本語教育論演習Ａ	2	30	2	前期	小峰　克之			
				日本語教育論演習Ｂ	2	30	2	後期	小峰　克之			
				図書館文化論演習Ａ	2	30	2	前期	大沼太兵衛			
				図書館文化論演習Ｂ	2	30	2	後期	大沼太兵衛			
				教育文化論演習Ａ	2	30	2	前期	村瀬　桃子			
				教育文化論演習Ｂ	2	30	2	後期	村瀬　桃子			
関連科目	共通	10800	10801	書道（木曜Ⅲ限）	4	60	1･2	通年	我彦　芳柳	④	いずれか一つ履修	教養
		10800	10802	書道（木曜Ⅳ限）					我彦　芳柳			教養
		10910		伝統文化論	2	30	1･2	前期	石黒　志保			教養
		10920		有職故実	2	30	1･2	集中	田中　潤		後期開講（2～3月）	教養
		10930		民俗学概説	2	30	1･2	前期	阿部　宇洋		［日］と合同	
		10951		山形の郷土資料と文学	2	30	1･2	前期	千葉　正昭			教養
		10952		現代文化論	2	30	1･2	後期	今井　瞳良			教養
		10960		東洋思想	2	30	1･2	前期	小野　卓也		［日］は専門単位［英･社］は教養単位	教養
		10970		現代社会と教育問題	2	30	1･2	後期	村瀬　桃子			教養
		11120	11121	古文書学	2	30	1･2	後期	原　淳一郎		［日］「古文書学２」で読替	
		11120	11122	古文書学					山田彩起子		いずれか一つ履修	
				古文書学演習	2	30	2	前期	小林　文雄		［日］「古文書学３」で読替「古文書学」の既修が望ましい	
		11131		日本古代社会の歴史	2	30	1･2	前期	吉田　歓		［日］「日本史概説１」で読替	
		11141		日本中世社会の歴史	2	30	1･2	前期	山田彩起子		［日］「日本史概説２」で読替	
		11151		日本近世社会の歴史	2	30	1･2	前期	小林　文雄		［日］「日本史概説３」で読替	
		11160		日本文化史	2	30	1･2	後期	原　淳一郎		［日］「日本文化史概説」で読替	
		11171		視覚文化論	2	30	1･2	後期	小池　隆太		［社］と合同	
				卒業研究	4		2					

（注）・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位
・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から１つのみ選択できる
・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

国語国文学科専門科目（令和５年度入学生用）

		科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	開放
基幹科目				国文学概論	②	30	1	後期	佐々木紀一	○		教養
				国語学概論	②	30	1	後期	髙橋　永行	○		教養
		10060		古典文学史	2 ②｝	30	1･2	前期	佐々木紀一	○		教養
		10070		近現代文学史	2	30	1･2	後期	奥村　華子	○		教養
基礎科目	共通			古典文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岩原　真代		本年度開講せず	
				古典文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岩原　真代		本年度開講せず	
				古典文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	齋藤　奈美			
				古典文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	齋藤　奈美			
				古典文学基礎演習ⅢA	2	30	1	前期	佐々木紀一			
				古典文学基礎演習ⅢB	2	30	1	後期	佐々木紀一			
				近現代文学基礎演習ⅠA	2 ④	30	1	前期	岡　英里奈		原則として同一科目名のＡＢをセットで（ＡとＢとで担当者が同一のものを）履修すること	
				近現代文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岡　英里奈			
				近現代文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	今井　瞳良			
				近現代文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	今井　瞳良			
				国語学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	山本　淳			
				国語学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	山本　淳			
				国語学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	髙橋　永行			
				国語学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	髙橋　永行			
		10181		論理と表現	2	30	1･2	前期	今井　瞳良			教養
				国語表現法A 国語表現法A	｝2	30	1	前期	髙橋　永行 山本　淳	｝②	「音声表現法A」で読替 いずれか一つ履修	
				国語表現法B 国語表現法B	｝2	30	1	後期	髙橋　永行 山本　淳	｝②	「音声表現法B」で読替 いずれか一つ履修	
	日本古典文学			古典文学講読Ⅰ	2	30	1･2	前期	岩原　真代		本年度開講せず	
		10221		古典文学講読Ⅱ	2	30	1･2	前期	齋藤　奈美			
		10231		古典文学講読Ⅲ	2	30	1･2	前期	佐々木紀一			
		10241		古典文学作品研究Ⅰ	2	30	1･2	集中	千野　裕子		後期開講（2～3月）	
		10251		古典文学作品研究Ⅱ	2 ②	30	1･2	後期	齋藤　奈美			
		10261		古典文学作品研究Ⅲ	2	30	1･2	後期	佐々木紀一			
		10271		古典文学特講Ⅰ	2	30	1･2	集中	千野　裕子		前期開講（8～9月）	
		10281		古典文学特講Ⅱ	2	30	1･2	後期	石黒　志保			
		10291		古典文学特講Ⅲ	2	30	1･2	前期	佐々木紀一			
	日本近現代文学	10411		近現代文学講読Ⅰ	2	30	1･2	後期	千葉　正昭			
		10421		近現代文学講読Ⅱ	2	30	1･2	前期	今井　瞳良			
		10431		近現代文学作品研究Ⅰ	2	30	1･2	前期	奥村　華子			
		10441		近現代文学作品研究Ⅱ	2 ②	30	1･2	後期	今井　瞳良			
		10451		近現代文学特講Ⅰ	2	30	1･2	前期	千葉　正昭			
		10461		近現代文学特講Ⅱ	2	30	1･2	後期	今井　瞳良			
	国語学	10022		日本語教育概論	2	30	2	前期	小峰　克之			
		10511		日本語文化論Ⅰ	2	30	1･2	前期	小峰　克之		「日本語文化論」で読替	
		10521		日本語文化論Ⅱ	2	30	1･2	後期	小峰　克之		「日本語運用スキルアップゼミ」で読替	
		10531		国語資料講読Ⅰ	2 ④	30	1･2	前期	山本　淳		「国語資料講読」で読替	
				国語資料講読Ⅱ	2	30	1･2	後期	山本　淳		本年度開講せず	
		10550		国語学特講	2	30	1･2	前期	山本　淳			
		10560		日本語文書・表現プログラム	2	30	1･2	集中	田中　宣廣	○	前期開講（8～9月）	
	漢文学	10600		漢文学概説	2	30	1･2	前期	渡部東一郎	○		
		10611		漢文学講読	2	30	1･2	前期	渡部東一郎			
		10621		漢文学作品研究	2	30	1･2	後期	渡部東一郎			
				漢文学専門ゼミⅠ	2	30	1	後期	渡部東一郎			
		10641		漢文学専門ゼミⅡ	2	30	2	前期	渡部東一郎			
		10650		漢文学特講	2	30	1･2	後期	渡部東一郎			
展開科目	共通			古典文学演習ⅠA	2	30	2	前期	岩原　真代		本年度開講せず	
				古典文学演習ⅠB	2	30	2	後期	岩原　真代		本年度開講せず	
		10721		古典文学演習ⅡA	2	30	2	前期	佐々木紀一			
		10722		古典文学演習ⅡB	2	30	2	後期	佐々木紀一			
		10731		近現代文学演習ⅠA	2	30	2	前期	千葉　正昭			
		10732		近現代文学演習ⅠB	2	30	2	後期	千葉　正昭			
		10742		近現代文学演習ⅡA	2	30	2	前期	今井　瞳良		原則として同一科目名のＡＢをセットで（ＡとＢとで担当者が同一のものを）履修すること	
		10743		近現代文学演習ⅡB	2	30	2	後期	今井　瞳良			
		10751		国語学演習ⅠA	2 ④	30	2	前期	山本　淳		「国語学演習A」で読替	
		10752		国語学演習ⅠB	2	30	2	後期	山本　淳		「国語学演習B」で読替	
		10761		国語学演習ⅡA	2	30	2	前期	小峰　克之		「日本語教育論演習A」で読替	
		10762		国語学演習ⅡB	2	30	2	後期	小峰　克之		「日本語教育論演習B」で読替	
		10782		図書館文化論演習A	2	30	2	前期	大沼太兵衛			
		10783		図書館文化論演習B	2	30	2	後期	大沼太兵衛			
		10791		教育文化論演習A	2	30	2	前期	村瀬　桃子			
		10792		教育文化論演習B	2	30	2	後期	村瀬　桃子			
関連科目	共通	10800	10801	書道（木曜Ⅲ限） 書道（木曜Ⅳ限）	｝4	60	1･2	通年	我彦　芳柳 我彦　芳柳	｝④	いずれか一つ履修	教養 教養
		10910		伝統文化論	2	30	1･2	前期	石黒　志保			教養
		10920		有職故実	2	30	1･2	集中	田中　潤		後期開講（2～3月）	教養
		10930		民俗学概説	2	30	1･2	前期	阿部　宇洋		［日］と合同	
		10951		山形の郷土資料と文学	2	30	1･2	前期	千葉　正昭			教養
		10952		現代文化論	2	30	1･2	後期	今井　瞳良			教養
		10960		東洋思想	2	30	1･2	前期	小野　卓也		［日］は専門単位［英･社］は教養単位	教養
		10970		現代社会と教育問題	2	30	1･2	後期	村瀬　桃子			教養
		11120	11121	古文書学 古文書学	｝2	30	1･2	後期	原　淳一郎 山田彩起子		［日］「古文書学２」で読替 いずれか一つ履修	
		11123		古文書学演習	2	30	2	前期	小林　文雄		［日］「古文書学３」で読替 「古文書学」の既修が望ましい	
		11131		日本古代社会の歴史	2	30	1･2	前期	吉田　歓		［日］「日本史概説１」で読替	
		11141		日本中世社会の歴史	2	30	1･2	前期	山田彩起子		［日］「日本史概説２」で読替	
		11151		日本近世社会の歴史	2	30	1･2	前期	小林　文雄		［日］「日本史概説３」で読替	
		11160		日本文化史	2	30	1･2	後期	原　淳一郎		［日］「日本文化史概説」で読替	
		11171		視覚文化論	2	30	1･2	後期	小池　隆太		［社］と合同	
		11010		卒業研究	4		2					

（注）・「○数字」は必修単位、「｝○数字」は選択必修単位
・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から１つのみ選択できる
・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

講義科目名称：国文学概論（10010）　　授業コード：10010

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
佐々木　紀一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学ぶ対象と意義、その範囲、考え始めると難しいのですが、国文学（に限らず文学）とは何か、文学の対象、価値、構成、成立、技法、批評法について、全般的に理解を深めましょう。到達目標　１、文学はどのような芸術か、存在形式についての理解。２、文学の価値を巡る議論についての理解。３、文学解釈の諸理論・方法についての理解。
授業計画	第1回　今、そしてこれからの世界で、文学を読む意味（「有益かつ快楽」？） 第2回　文学と文学以外（文学は言語の特別な構築物？） 第3回　国文学の対象（範囲と価値） 第4回　国文学の諸ジャンル 第5回　国文学の成立（古典） 第6回　国文学の成立（近代文学 - 作家論について） 第7回　作家なんて（　）に入れろ！（１）ロシア・フォルマリズム、ニュークリティシズム、神話批評 第8回　作家なんて（　）に入れろ！（２）受容理論、解釈学 第9回　作家なんて（　）に入れろ！（３）記号論、脱構築 第10回　作家なんて（　）に入れろ！（４）精神分析批評 第11回　全てを歴史化しろ！（１）ポスト・コロニアル、フェミニズム批評 第12回　全てを歴史化しろ！（２）ニューヒストリシズム 第13回　文学の技巧（１）ロッジ『小説の技巧』から（１） 第14回　文学の技巧（２）ロッジ『小説の技巧』から（２） 第15回　再び（国）文学を読む意味
授業概要	前半は文学を読む意味、文学の対象（範囲）、価値、成立について、後半は、各自の以降の文学理解に必要な、さまざまな批評の理論、技巧について学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	参考書の廣野さんの著書の精読 作品は指定しませんが、各ジャンルの文学作品を読む
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	知識詰め込みはしません。じっくり考えましょう。皆さんが今後、文学を友として生きていけますように。
評価方法	レポート（100%）
参考文献	廣野由美子「批評理論入門ー『フランケンシュタイン』解剖講義」（中公新書） Ｄ．ロッジ『小説の技巧』が面白く、分かりやすいです。さらに深めたい人は、Ｔ．イーグルトン『文学とは何か（上）・（下）』（岩波文庫）が良いです。
備考	

講義科目名称：国語学概論（10020）　　授業コード：10020

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	1	2	選択必修・教職必修	
担当教員				
山本　淳				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	国語学は、日本語ということばそのものを研究対象とする学問分野です。この授業はその入門的性格をもつもので、現代日本語の構造や体系についての概要を学びます。この授業の受講を通して、 ①日本語の音声の特徴が解る　②日本語の語の構成や単語同士の関係性が解る ③学校文法の利点と欠点を捉えて書き言葉とは別の文法体系があることが解る ④標準日本とは又別に言語層が多重的に存在することに気づく という学修成果の獲得を目指します。
授業計画	第1回　言語と人間 導入 言語の特質・言語の機能・大脳の言語中枢(ブロードマンの脳地図) 第2回　日本語の音声と音韻１（単音と音素） 音声学と音韻論について 第3回　日本語の音声と音韻２（音声器官と調音） 子音の特徴をめぐって／音声器官と調音について 第4回　日本語の音声と音韻３（子音と歴史的変容） 音声・音韻史 第5回　日本語の音声と音韻４（かぶせ音素） 主にアクセントのこと 第6回　日本語の文字表記１（日本語表記の特徴） 漢字仮名まじり表記の特徴について 第7回　日本語の文字表記２（漢字と仮名） 漢字と仮名の歴史 第8回　日本語の文字表記３（仮名の諸相と仮名遣い） 主に仮名遣いのこと 第9回　日本語の語彙１（語彙調査・語の意味・類語） 主に語の意味のこと 第10回　日本語の語彙２（語種と語構成） 主に語構成法のこと 第11回　日本語の語彙３（語の位相） 日本語における言語層の多相性について 第12回　日本語の文法１（学校文法と文節文論） 学校文法と現代語文法論 第13回　日本語の文法２（現代日本語の文法） 現代語文法論／敬語の5分類と歴史的展開 第14回　日本語の方言1 方言と標準語・方言分布について 第15回　日本語の方言2 周圏分布と東西分布／方言の過去と将来
授業概要	日本語という言語の個性について、音声、文字・表記、語彙、文法、標準語・方言という各観点から講述します
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、スライド資料を参照して、要点を理解するように勉めてください テキストに掲げてある巻末の問題について、各回終了御、銘々解答しておいてください
テキスト	藤田保幸著『緑の日本語学教本』・A5判・並製・カバー装　1,300円(本体価格)　ISBN978-4-7576-0541-1 C1381 初回時希望を募ってさわらび購買部に一括注文します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「ことばに対する素朴な疑問」を大切にしましょう 講義終了後に出される課題は、期限を守り、必ず提出しましょう
評価方法	試験40%、課題提出（授業への参加度を含む）60%で総合評価します
参考文献	『日本語学研究事典』(明治書院) 『日本語学キーワード事典』(朝倉書店) 『日本語百科大事典』(大修館書店)
備考	授業中はスライドを使用します

	必要に応じてカメラでの撮影は各自の判断で行ってください
	高大連携・単位互換指定科目

講義科目名称：日本語教育概論（10022）　　授業コード：10022

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	１・２	２	選択必修	
担当教員				
小峰　克之				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本語教育とは一体どのようなものなのか、その概略を講義する。 到達目標1　日本語教育の教授内容を具体的に説明できる。 2　母語話者が教授する場合の問題点を意識できる。 3　学習者に合わせて練習方法や評価方法を考えられる。
授業計画	第１回　導入　日本語教育とは何か 第２回　母語話者による日本語教授の問題点 第３回　第二言語習得理論 第４回　文字の指導 第５回　漢字圏からの留学生の問題 第６回　母語話者が学ぶ文法との違い 第７回　動詞の教授法 第８回　様々な文法概念 第９回　教科書の選択 第１０回　文末表現 第１１回　談話指導 第１２回　様々な練習方法 第１３回　中上級学習者に対する指導 第１４回　フィードバックと評価方法 第１５回　まとめ
授業概要	海外では母語話者であるというだけで日本語教師として採用するといったことが以前よく見られたが、その場合何が問題となるのか、また、それではどうすれば良いのか、そのような点について考えながら授業を展開する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、ポイントが示されている場合は次の授業までにやっておく。
テキスト	プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本語教育について学ぶことは、自分の日本語を見つめ直す良い機会となります。授業を通して、普段自分が使っている日本語について考えてみましょう。
評価方法	試験（90%）、授業への参加度（10%）で評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：古典文学史（10060）　　授業コード：10060

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修・教職必修
担当教員			
佐々木　紀一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	上代から近世にかけての国文学史を概観しながら、名作・名文を読解する。 古典文学史を通して、日本人の精神史をたどり、各作品の主題と意義を理解する。到達目標は、１、歴史、特に文学史認識の方法、議論の理解、２、日本文学の対象についての理解、３、各時代の文学概況、様式、精神についての理解が到達目標となります。
授業計画	第１回　古典文学史概説 第２回　上代文学（神話の世界、古事記） 第３回　上代文学（日本書紀、風土記） 第４回　上代文学（万葉集１） 第５回　上代文学（万葉集２、懐風藻ほか） 第６回　中古文学（概観、漢詩文） 第７回　中古文学（和歌、古今和歌集） 第８回　中古文学（八代集、歌合、歌論） 第９回　中古文学（前期物語、源氏物語） 第１０回　中古文学（後期物語、歴史物語） 第１１回　中古文学（日記文学、随筆） 第１２回　中古文学（説話、歌謡） 第１３回　中世文学（和歌、連歌） 第１４回　中世文学（物語、説話、芸能） 第１５回　近世文学（小説、俳諧）
授業概要	テキストに沿って、上代から近世に至る文学作品を、歴史的背景を確認しながら年代順に読解、紹介していきます。文学作品の相互の関係性と受容史を意識しながら進めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文学作品がどのように成立し、また、後世の作品にどのような影響を及ぼしたのかを意識しながら文学史を理解して下さい。また、藤原定家撰の『小倉百人一首』は、上代から中世にかけての歌人・文人の名歌が時代順に配列され、文学史の流れを確認できます。是非暗唱して下さい。
テキスト	秋山虔・三好行雄 編著『原色 新日本文学史（増補版）』文英堂、715円、ISBN：978-4-578-27192-5
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古典文学史を通して日本とは何かを考えます。古典を知ることは現代に生きる我々自身を考えることに通じます。古典の名作、名文に親しむことで日本人の精神のルーツと変遷を確かめてみて下さい。
評価方法	期末試験（90%）、授業への参加度（10%）で評価する。（期末試験には『百人一首』の暗唱を含む。）
参考文献	久保田淳ほか編『岩波講座日本文学史』全10巻、岩波書店 加藤周一『日本文学史序説　上・下』（加藤周一著作集４・５）、筑摩書房 久保田淳編『日本文学史』おうふう、1997年 秋山虔・三好行雄編『新日本文学史』文英堂、2017年　ほか。
備考	

講義科目名称：近現代文学史（10070）　　授業コード：10070

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修・教職必修
担当教員			
奥村　華子			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本の近現代文学史について小説を中心に概観することで、大まかな流れを理解できる。 社会的背景にも目を配りながら主要な作品を実際に読解することで、各作品の持つテーマや意義を判断できる。
授業計画	第1回　ガイダンス・近世から近代へ 第2回　近代の出発 第3回　「社会」と「自然」 第4回　自然主義と近代の成立 第5回　夏目漱石・森鴎外と耽美派 第6回　大正文壇の成立 第7回　「心境小説」と「私小説」 第8回　プロレタリア文学運動の隆盛 第9回　新感覚派とモダニズム文学 第10回　戦時下の文学――転向と文芸復興 第11回　敗戦後の文学史的展開 第12回　高度経済成長期の始まり 第13回　高度経済成長期の終わり 第14回　ポスト・モダンの文学 第15回　現代社会と文学――「日本語」文学という枠組
授業概要	テキストに沿い、近現代の文学史の概要を紹介する。主要な作家や作品、文芸思潮や文学運動の動向とその背景を関連させながら、史的な展開を把握していく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業時にわからなかった事項や社会的背景は、自身でも調べること。授業で扱った作品で気になるものがあれば、通読すること。
テキスト	秋山 虔、三好 行雄『原色　新日本文学史　（増補版）』文英堂、650円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎授業時の最後にコメントシートを記入、提出してもらいます。 文学史の流れを追うだけでなく、授業で取り上げる作品は一部抜粋するなどして授業時に本文を読んでもらえるようにするので、気になった作品についてはぜひ通読してみてください。
評価方法	期末試験（80%）、毎授業記入するコメントシート（20%）で評価する
参考文献	安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2015年） 奥野建男『日本文学史　近代から現代へ 』(中公新書、1970年) 紅野敏郎・三好行雄ほか編『明治の文学　近代文学史１』、『大正の文学　近代文学史２』、『昭和の文学　近代文学史３』（有斐閣書房、1972年） 斎藤美奈子『日本の同時代小説』（岩波新書、2018年） 中村光夫『日本の近代小説』（岩波新書、1954年）、『日本の現代小説』（岩波新書、1968年） 三好行雄『近代日本文学史』（有斐閣書房、1978年） その他、授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：古典文学基礎演習ⅡＡ（10121）　　授業コード：10121

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
齋藤　奈美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の歌物語の表現方法について理解できる。 2. 各自設定したテーマについて辞書、索引、関連図書を使って調べることができる。 3. 調べたことをもとに自らの意見を組み立て、資料を作成して発表することができる。 4. 発表者の意見を理解し、自らの意見を述べて討議できる。
授業計画	第１回　ガイダンス(辞書・文献などの使い方、発表資料の作成方法について) 『伊勢物語』概説①「『伊勢物語』の時代と在原業平」「書名と成立」 第２回　『伊勢物語』概説②『伊勢物語』と『古今和歌集』」「成立論について」 第３回　『伊勢物語』講読「初冠」(初段) ※「講読」は教員による講義形式で行う。以下同じ。 第４回　『伊勢物語』講読「二条后章段」①(第三段・第四段)※(第６回の資料提出) 第５回　『伊勢物語』講読「二条后章段」②(第五段・第六段) 第６回　『伊勢物語』演習「筒井筒」①(第二十三段) ※受講生全員で分担(語釈・現代語訳)して発表 第７回　『伊勢物語』演習「筒井筒」②(第二十三段) ※受講生全員で内容について議論 第８回　『伊勢物語』講読「二条后章段」③(第六十五段) 第９回　『伊勢物語』演習「東下り章段」①(第七段第八段) ※「演習」は担当者による発表と出席者による質疑応答の形式で行う。以下同じ。 第10回　『伊勢物語』演習「東下り章段」②(第九段)「東国章段」①(第十段) 第11回　『伊勢物語』演習「東国章段」②(第十一段～第十三段) 第12回　『伊勢物語』演習「陸奥国章段」(第十四段第十五段) 第13回　『伊勢物語』演習「二条后後日譚」(第二十六段第二十九段) 第14回　『伊勢物語』演習「狩使章段」(第六十九段第七十段) 第15回　『伊勢物語』演習「伊勢国章段」(第七十一段第七十二段第七十五段)
授業概要	『伊勢物語』の概要について学んだ後、各段を読んでいきます。発表担当者が調べ、考察したことについて報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進める予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、レジュメを作成すること。担当以外の学生はその段をあらかじめ読み、内容を理解しておくこと。
テキスト	石田穣二訳注『伊勢物語』（角川ソフィア文庫）ISBN9784044005016税込 価格792円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』は和歌とその和歌をめぐる物語からなる短い章段、百二十五段で構成されています。和歌の解釈、章段ごとの解釈、『伊勢物語』の中での解釈、『古今和歌集』『大和物語』との比較など、さまざまに読むことができるおもしろさを感じ取ってもらいたいと思います。毎時全員に発言を求めますので、予習して授業に臨んで下さい。
評価方法	発表(50%)・討論における発言・提出物（30%）、レポート（20%）
参考文献	授業中に指示します。
備考	

講義科目名称：古典文学基礎演習ⅡＢ（10122）　　授業コード：10122

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
齋藤　奈美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の歌物語の表現方法、文化的背景について理解できる。 2. 各自設定したテーマについて辞書、索引、関連図書を使って調べることができる。 3. 調べたことをもとに自らの意見を組み立て、資料を作成して発表することができる。 4. 発表者の意見を理解し、自らの意見を述べて討議できる。 5. 討議を踏まえて自分が考察したことを再検討し、レポートにまとめることができる。
授業計画	第１回　『伊勢物語』講読「惟喬親王章段」①(第八十二段) 第２回　『伊勢物語』講読「惟喬親王章段」②(第八十三段・第八十五段) 第３回　『伊勢物語』演習「実名章段」(第十六段・第三十九段・第百一段など) 第４回　『伊勢物語』演習「梓弓」(第二十四段) 第５回　『伊勢物語』演習「むかしの若人」(第四十段) 第６回　『伊勢物語』演習「行く蛍」(第四十五段) 第７回　『伊勢物語』演習「花橘」(第六十段) 第８回　『伊勢物語』演習「つくも髪」(第六十三段) 第９回　『伊勢物語』演習「二条后章段」(第七十六段・第九十五段) 第10回　『伊勢物語』演習「翁章段」(第七十六段～第七十九段・第百十四段) 第11回　『伊勢物語』演習「さらぬ別れ」(第八十四段) 第12回　『伊勢物語』演習「絵かく女」(第九十四段) 第13回　『伊勢物語』演習「斎宮章段」(第百二段・第百四段) 第14回　『伊勢物語』演習「陸奥国章段」(第百十五段・第百十六段) 第15回　『伊勢物語』演習「つひにゆく道」(第百二十四段・第百二十五段)
授業概要	発表担当者が調べ考察したことを報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進めます。自分の解釈、意見を説得的に述べるには、何を根拠にあげればよいのか、どの表現・語句に注目して論を展開すればよいのか、実践の中で学んでいくことを目指します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、テーマを決めて考察し、レジュメを作成すること。担当者以外の者はその段をあらかじめ読み、内容を理解し、自分なりの解釈を述べられるようにしておくこと。
テキスト	石田穣二訳注『伊勢物語』（角川ソフィア文庫）ISBN9784044005016 税込価格792円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』の「男」はどのような人物と捉えられるか。「“男”の一代記」に当てはまらない段をどう考えるか。和歌の解釈と物語の関係をどう考えるか……など、各段の解釈にとどまらず、『伊勢物語』という物語にせまって欲しいと思います。毎時全員に発言を求め、感想カードを提出してもらいますので、予習して授業に臨んで下さい。
評価方法	発表(30%)、討論における発言・出席（30%）、年度末レポート（40%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：古典文学基礎演習ⅢＡ（10131）　　授業コード：10131

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
佐々木　紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、和歌を中心に古典の読解を発展させます。到達目標は、１、辞書・参考文献の利用法。２、古典文法の復習。３、和歌の技巧の理解。４、和歌の読解発表。が到達目標となります。
授業計画	第１回　導入　藤原公重と『風情集』述懐百種について 第２回　古典文法概観・古典読解の諸道具（辞書・辞典・図書館・検索法）について 第３回　古典和歌の世界、修辞について 第４回　和歌の歴史１（万葉～平安時代） 第５回　和歌の歴史２（鎌倉～江戸時代） 第６回　受講生の発表１（古今集より） 第７回　受講生の発表２（和泉式部集より） 第８回　受講生の発表３（山家集より） 第９回　受講生の発表４（風情集より） 第１０回　受講生の発表５（風情集より） 第１１回　受講生の発表６（風情集より） 第１２回　受講生の発表７（風情集より） 第１３回　和歌の詠作１ 第１４回　和歌の詠作２ 第１５回　和歌の詠作３
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。勿論、平安和歌ですから、平安時代を基とする「古典文法」と修辞に基づいてをります。授業では、この作品に限らず、古典作品を読む為の参考図書、辞書等の利用方を学び、次に入門として『古今集』他、また『風情集』の他の箇所より、一般的な和歌を取り上げます。各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。更に王朝風和歌を詠んでみましょう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携（電子辞書はお勧めしません）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	吾と云へば人の言葉はあらち山かくては何と生まれこしぢぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです（荒らしと愛発山が懸詞）。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう（と歎かれます）（来しと越路が懸詞） なんて素敵な歌が続出です♪。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。
評価方法	演習の発表（100%）
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』
備考	

講義科目名称：古典文学基礎演習ⅢＢ（10132）　　授業コード：10132

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
佐々木　紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、ⅢＡに継いで和歌、古典の読解を発展させます。到達目標は、１、古典文法の復習、２、和歌の技巧の理解、３、公重の和歌の解釈発表が到達点です。
授業計画	第１回　『風情集』述懐百種・古典和歌の世界、修辞について（復習） 第２回　受講生の発表１（風情集５３５～５４５番、以下同） 第３回　受講生の発表２（風情集５４６～５５６） 第４回　受講生の発表３（風情集５５７～５６７） 第５回　受講生の発表４（風情集５６８～５７８） 第６回　受講生の発表５（風情集５７９～５８９） 第７回　受講生の発表６（風情集５９０～６００） 第８回　受講生の発表７（風情集６０１～６１１） 第９回　受講生の発表８（風情集６１２～６２２） 第１０回　受講生の発表９（風情集６２３～６３３） 第１１回　受講生の発表１０（風情集６３３～６３４） 第１２回　和歌詠作１ 第１３回　和歌詠作２ 第１４回　和歌詠作３（公重風に） 第１５回　和歌詠作（公重風に）
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。本授業では独特のレトリックに満ちた、問題の百首に取り掛かります。各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。更にⅢＡに引き続き王朝風、公重風和歌を各自つくります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携（電子辞書はお勧めしません）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	吾と云へば人の言葉はあらち山かくては何と生まれこしぢぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです（荒らしと愛発山が懸詞）。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう（と歎かれます）（来しと越路が懸詞） なんて素敵な歌が続出です。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。
評価方法	演習の発表（100%）
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』
備考	

講義科目名称：近現代文学基礎演習ＩＡ（10143）　　授業コード：10143

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
奥村　華子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主要な作品、及び国語教材に頻出する作品について、読解を深めるための基礎力を身につけることができる。自分の意見を他者に分かるよう説明し、積極的な議論に繋げていくことができる。
授業計画	第1回　前期ガイダンス・各担当の振り分け 第2回　「作者」と「読者」①――志賀直哉「小僧の神様」の読解 第3回　「作者」と「読者」②――志賀直哉「小僧の神様」のグループ発表 第4回　「語り手」・「人称」・「視点」①――国木田独歩「鎌倉夫人」の読解 第5回　「語り手」・「人称」・「視点」②――国木田独歩「鎌倉夫人」のグループ発表 第6回　「描写的な表現」と「説明的な表現」①――横光利一「蠅」の読解 第7回　「描写的な表現」と「説明的な表現」②――横光利一「蠅」のグループ発表 第8回　ジェンダーと「語り」①――太宰治「千代女」の読解 第9回　ジェンダーと「語り」②――太宰治「千代女」のグループ発表 第10回　「物語論」①――佐藤春夫「女誡扇綺譚」の読解 第11回　「物語論」②――佐藤春夫「女誡扇綺譚」のグループ発表 第12回　「同時代評」の分析①――森？外「舞姫」の読解 第13回　「同時代評」の分析②――森？外「舞姫」のグループ発表 第14回　文学と「都市空間」①――田山花袋「少女病」の読解 第15回　文学と「都市空間」②――田山花袋「少女病」のグループ発表
授業概要	履修者によるグループ発表とディスカッション形式で行います。指定した教科書で取り上げられている作品の内容や解説で紹介されている文学理論の理解のために、必要な資料は教員がプリントとして配布します。なお、授業の進度や理解状況により、上記の順序や内容を変更する場合があります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表担当者以外も、対象作品や資料を事前に読み、疑問点や自分なりの意見を考えておくこと。
テキスト	河野龍也、佐藤淳一ほか編『大学生のための文学トレーニング　近代編』三省堂 、2100円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	演習形式の授業は、皆さんの発表と議論によって成り立ちます。発表や積極的な発言のため、作品をじっくりと読み、自分の考えを言葉にしてみる練習にしましょう。皆さんのディスカッションで出た意見やコメント・課題については適宜授業中に紹介・解説し、全体で共有します。
評価方法	授業中の報告内容（40%）、質問や議論時の発言（30%）、授業内課題への取り組み（30%）
参考文献	授業中に適宜提示します。
備考	

講義科目名称：近現代文学基礎演習ＩＢ（10144）　　授業コード：10144

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
奥村　華子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主要な作品、及び国語教材に頻出する作品を読解し、議論を行うための分析力を身につけることができる。発表では作品の背景やテキストの解説で用いられている分析のためのキーワードについて、調査したり注釈をつけたりする作業を通して、文学テクストを論じるための実践力へ繋げていくことができる。
授業計画	第1回　後期ガイダンス・各担当の振り分け・資料の探し方・教員による模擬発表 第2回　「日記」と「小説」①――林芙美子「放浪記」の読解 第3回　「日記」と「小説」②――林芙美子「放浪記」の個人発表 第4回　「メディア」と「同時代言説」①――坂口安吾「真珠」の読解 第5回　「メディア」と「同時代言説」②――坂口安吾「真珠」の個人発表 第6回　敗戦という「コンテクスト」①――石川淳「焼跡のイエス」の読解 第7回　敗戦という「コンテクスト」②――石川淳「焼跡のイエス」の個人発表 第8回　「本文異同」①――夏目漱石「坊っちゃん」の読解 第9回　「本文異同」②――夏目漱石「坊っちゃん」の個人発表 第10回　「典拠」①――芥川龍之介「舞踏会」の読解 第11回　「典拠」②――芥川龍之介「舞踏会」の個人発表 第12回　「改稿」①――井伏鱒二「山椒魚」の読解 第13回　「改稿」②――井伏鱒二「山椒魚」の個人発表 第14回　「挿絵」①――谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」の読解 第15回　「挿絵」①――谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」の個人発表
授業概要	履修者による個人発表とディスカッション形式で行います。指定した教科書で取り上げられている作品の内容や解説で紹介されている文学理論の理解のために、必要な資料は教員がプリントとして配布します。なお、授業の進度や理解状況により、上記の順序や内容を変更する場合があります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表担当者以外も、対象作品や資料を事前に読み、疑問点や自分なりの意見を考えておくこと。
テキスト	河野龍也、佐藤淳一ほか編『大学生のための文学トレーニング　近代編』三省堂 、2100円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	前期までの内容を下敷きに、皆さんの思いついた感想や疑問を研究的な問いとしてまとめていく練習をします。発表やレポートに取り組むことを通して、他者を説得するために必要な調査や論理展開を身につけていきましょう。
評価方法	授業中の報告内容（30%）、質問や議論時の発言（20%）、レポート課題（50%）
参考文献	授業中に適宜提示します。
備考	

講義科目名称：近現代文学基礎演習ⅡＡ（10151）　　授業コード：10151

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
今井　瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で現代社会とメディアに関する文献と論文、小説を読みます。到達目標は以下の二つです。①現代社会を読みとく視座と文学作品の読む力を身につける。②議論に参加することによって自身の考えを発信する力と他者の考えを聞く力を身につける。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　プレゼンテーションを学ぶ 第３回　トーク① 第４回　文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』①：報道写真、広告 第５回　文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』②：表紙、インフォグラフィック 第６回　文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』③：広報、論説文 第７回　文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』④：演説文、ニュース記事 第８回　文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』⑤：評論文、マニュアル 第９回　文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する 第10回　文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する 第11回　文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する 第12回　文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する 第13回　村田沙耶香『コンビニ人間』を読む 第14回　宇佐美りん『推し、燃ゆ』を読む 第15回　トーク②
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。また、トークでは気になる小説、映画、アニメ、ゲーム、動画、ニュース等について簡単な発表をしてもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の周りにあるメディアに意識を向けるようにしてください。小説を読む力は、自分の周りの世界を読む力でもあります。
評価方法	授業中の報告（60%）、議論への貢献度（40%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学基礎演習ⅡＢ（10152）　　授業コード：10152

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
今井　瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で芥川龍之介「羅生門」を読んでいくとともに、作品分析について学びます。授業の後半では、各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学作品の精読を通して、作品分析の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるよう伝える。
授業計画	第１回　ガイダンス：論文の書き方を学ぶ 第２回　作品分析を学ぶ①：なぜ分析するのか 第３回　作品分析を学ぶ②：どう記述するのか 第４回　映画『羅生門』（1950年）を見る 第５回　芥川龍之介「羅生門」とその論点① 第６回　芥川龍之介「羅生門」とその論点② 第７回　芥川龍之介「羅生門」とその論点③ 第８回　芥川龍之介「羅生門」とその論点④ 第９回　映画『羅生門』とその論点① 第10回　映画『羅生門』とその論点② 第11回　個人研究発表① 第12回　個人研究発表② 第13回　個人研究発表③ 第14回　個人研究発表④ 第15回　個人研究発表⑤
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。個人研究では、各自で作品を選んで研究してもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	芥川龍之介の生涯や他の小説なども調べてみてく下さい。作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに関心を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（30%）及び議論への貢献度（30%）、期末レポート（40%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：国語学基礎演習Ａ（10163）　　授業コード：10163

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
山本　淳			

授業のテーマ及び到達目標	国語学国文学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの主軸に据えて、古典文学の実文章に触れ、古典文法の基礎的事項を十分に理解し、古典を「読む」技術を身につけることをねらいとします。この授業の受講を通して、 ①古典文法がしっかり解る　②古典を朗読することが難なく出来る ③書かれている内容から往時の貴族社会の宮中での様子が概ね把握できる ことを最終目標にして進めます。
授業計画	第1回　古典の仮名遣いについて確認する 第2回　日本文学史の時代区分を知る 第3回　古典文学史の流れを大掴みに把握する（上代・中古・中世・近世文学） 第4回　辞書の構成について理解する・古語を探査する 第5回　吉田兼好と『徒然草』について知る① 『徒然草』の章段を読む 古典文法の復習①　活用語（動詞　正格型①） 第6回　吉田兼好と『徒然草』について知る② 『徒然草』の章段を読む 古典文法の復習②　活用語（動詞　正格型②） 第7回　『伊勢物語』初段～一五段を読む① 在原業平をモデルとした章段を読む 古典文法の復習③　活用語（動詞　変格型） 第8回　『伊勢物語』初段～一五段を読む② 和歌集に採られた歌との関連性を考える 古典文法の復習④　活用語（動詞の型のまとめ） 第9回　『伊勢物語』初段～一五段を読む③ 註釈書の註記に従って解釈を施す 古典文法の復習⑤　活用語（形容詞） 第10回　『伊勢物語』初段～一五段を読む④ 註釈書の翻案に注意して解釈する 古典文法の復習⑥　活用語（所謂形容動詞と断定助動詞） 第11回　清少納言の活躍した時代について理解する 第12回　『枕草子』執筆の動機について理解する 第13回　『枕草子』の本文系統について整理する 第14回　『枕草子』類聚章段および随想的章段を読む 第15回　『枕草子』日記的章段を読む
授業概要	日本の古典文学におけるおおよその歴史的展開を理解するため、代表的な古典作品、とくに『枕草子』『徒然草』といった随筆や『伊勢物語』等の歌物語を中心教材とし、文体的な特徴を掴む。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週の学習範囲・概要を指定するので、示された部分を事前に読み、要点を掴むようにしてください 授業後は、問題点を整理し、理解の痕跡を残しておくことに勉めてください
テキスト	特段指定するテキストはありません 高校時代の国語科の授業で使用した古語辞典、古典文法のサブテキスト等あれば、座右に御用意ください （電子辞書等に替えても差し支え有りません）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校生の時に、あまり古典に馴染みが無かった方を対象に授業展開する予定です。作業中心に授業を進めることが受講生の理解に結びつくという傾向が授業評価から看て取れますので、できる限り作業を取り入れて進めたいと思います。
評価方法	授業への参加度(50%)と提出物を頻繁に課しますのでその成果(50%)とを併せて総合的に評価します。
参考文献	小田勝『読解のための古典文法教室』(和泉書院)

	安良岡康作『徒然草全注釈』（角川書店） 竹岡正夫『伊勢物語全評釈』（右文書院） 田中重太郎『枕冊子全注釈』（角川書店）
備考	

講義科目名称：国語学基礎演習Ｂ（10164）　　授業コード：10164

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
山本　淳			

授業のテーマ及び到達目標	引き続き国語学国文学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの主軸に据えて、「国語学基礎演習A」にて習得した古典文法基礎力を基に、古典の読み深を実践します。 この授業を通して、 ①　原典を読むことに馴れる ②　古注釈書の読み方を体得する という実践力が身につきます。
授業計画	第1回　演習計画 後期演習のためのおおまかな説明をいたします 第2回　北村季吟『枕草子春曙抄』について 第3回　『春曙抄』本文・傍注・頭注を読む 第4回　発表に備えて各自読みの練習をする①　―変体仮名に馴れる（1）現代に通用する字母― 第5回　発表に備えて各自読みの練習をする②　―変体仮名に馴れる（2）古筆特有の字母― 第6回　発表に備えて各自読みの練習をする③　―注釈部の理解― 第7回　発表①　「清涼殿の丑寅の隅の」 第8回　発表②　「頭中将そぞろなるそら言にて」 第9回　発表③　「里にまかでたるに」 第10回　発表④　「淑景舎東宮にまゐりたまふほどのことなど」 第11回　発表⑤　「円融院の御はての年」 第12回　発表⑥　「宮に初めてまゐりたるころ」 第13回　発表⑦　「御前に人々あまたもの仰せらるるついでに」 第14回　発表⑧　「大納言まゐりて」 第15回　発表⑨　「僧都の君の御乳母」
授業概要	古典が書かれた時代背景を理解しつつ、江戸時代に作られた『枕草子』注釈書のテキストを字起こししながら、読み進めてゆく
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	「国語学基礎演習A」と同様、翌週の学習範囲・概要を指定します 示された部分を事前に読み、要点を掴むようにしてください 授業後は、問題点を整理し、理解の痕跡を残しておくことに勉めてください
テキスト	「国語学基礎演習A」に同じく、特段指定するテキストはありません 高校時代の国語科の授業で使用した古語辞典、古典文法のサブテキスト等あれば、座右に御用意ください 電子辞書等の利用でも差し支え有りません
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「国語学基礎演習A」の学習内容を承けて、受講生による輪読を主体として授業展開します 授業中の積極的発言(授業内容に関与するものに限って)は大歓迎です
評価方法	授業への参加度(50%)と演習の成果(50%)とを併せて総合的に評価します
参考文献	小田勝『実例詳解古典文法総覧』(和泉書院) 田中重太郎『枕冊子全注釈』（角川書店） 萩谷朴『枕草子解環』（同朋舎出版）

講義科目名称：日本語教育論基礎演Ａ（10173）　　授業コード：10173

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
小峰　克之			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業では初級者に対する日本語教育のうち主に文法をテーマにし、その教授内容や方法を理解することを目的としている。 到達目標１　日本語教育の基本的な文法とその用語を理解し説明できる。 ２　教育内容を理解し、実施する場合の優先順位などを考えることができる。 ３　初級者に対して日本語教育を実際に教授できる。
授業計画	第１回　導入　日本語教育とは何か 第２回　使用テキストの概要と授業での扱い 第３回　テキスト1課　名詞文 第４回　テキスト2・3課　指示語 第５回　テキスト4課　動詞の導入 第６回　テキスト5・6課　自他動詞と助詞 第７回　テキスト7課　授受動詞 第８回　テキスト8課　形容詞と形容動詞 第９回　テキスト9課　構文「～は～が～」 第１０回　テキスト10・11課　存在の表現と数詞 第１１回　テキスト12・13課　形容詞と比較表現 第１２回　テキスト14課　動詞の「て形」 第１３回　テキスト15課　「て形」と許可・禁止 第１４回　テキスト16課　「て形」と文の接続 第１５回　テキスト17課　動詞の「ない」形
授業概要	初級用教科書として最も使用されている『みんなの日本語　初級Ｉ』を使い、日本語教育が実際どのように行われているかを理解する。また、授業では発表のような形で、学生に学習項目の導入を実演してもらうことも予定している。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。
テキスト	『みんなの日本語　初級Ｉ』。購買部で販売。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本語教育での教育内容や方法、また考え方は母語話者である私たちが中学高校で学んだ日本語の文法と大きく異なる点が多々ありますので、最初は戸惑うことがあると思いますが、初歩から丁寧に説明しますので、授業の後半ではある程度慣れてくると思います。
評価方法	ワークシート等の各種提出物（60%）、実演と質疑応答などの発言（40%）で評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：日本語教育論基礎演Ｂ（10174）　　授業コード：10174

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小峰　克之			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業は「日本語教育基礎演習A」に引き続き、初級者に対する日本語教育のうち文法をテーマにその教授内容と方法を理解することを目的としている。従って「日本語教育基礎演習A」で学んだことを前提として授業を進める。 到達目標１　初級において動詞の「て形」導入以降の教育内容を理解し説明できる。 ２　初級における教育範囲を理解し、その優先順位を考えることができる。 ３　動詞の「て形」導入以降の教育内容を実際に教授できる。
授業計画	第１回　導入　『みんなの日本語　初級Ｉ』17課までの復習 第２回　テキスト18課　可能表現と名詞化 第３回　テキスト19課　経験の表現・「する」と「なる」 第４回　テキスト20課　形容詞・形容動詞の普通形 第５回　テキスト21・22課　引用・連体修飾 第６回　テキスト23・25課　条件 第７回　テキスト24課　「て形」と授受表現 第８回　助詞のまとめ 第９回　使役・受け身・使役受け身 第１０回　敬語 第１１回　様々な条件の表現 第１２回　動詞の確認１　自他動詞 第１３回　動詞の確認2　瞬間動詞と継続動詞 第１４回　動詞の確認3　様々な補助動詞 第１５回　初級文法のまとめ
授業概要	「日本語教育基礎演習A」に引き続き、『みんなの日本語　初級Ｉ』を使って、日本語教育が現場でどのように行われているかを理解する。また、「基礎演習A」と同様、学生に学習項目の導入を実演してもらうことも予定している。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。
テキスト	『みんなの日本語　初級Ｉ』。購買部で販売。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「日本語教育基礎演習A」の内容を修得していることが前提となっていますので、Aと併せて履修してください。
評価方法	ワークシート等の各種提出物（60%）、実演と質疑応答などの発言（40%）で評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：論理と表現（10181）　　授業コード：10181

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
今井　瞳良			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	論理的な文章表現の基礎であるパラグラフライティングを学びます。到達目標は以下の二つです。①論理的な文章を書く力を身につける。②論理的思考力を身につける。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　なぜ文章は「読めない」のか 第３回　パラグラフライティング：トピックセンテンスを考える 第４回　パラグラフライティング：パラグラフを完成させる 第５回　絵画を例にパラグラフを書いてみる：ライティングの実践 第６回　絵画を例にパラグラフを書いてみる：ライティングの添削と実践 第７回　アニメを例にパラグラフを書いてみる 第８回　パラグラフを増やす：何を書いてはいけないのか 第９回　川端康成『日向』を読んでパラグラフを書く 第10回　川端康成『雨傘』を読んでパラグラフを書く 第11回　パラグラフを増やす：自分の意見と他人の意見を分ける 第12回　『日向』・『雨傘』課題総評 第13回　パラグラフを増やす：並べる順番を考える 第14回　パラグラフから文章へ 第15回　まとめ：最終課題の総評
授業概要	様々な題材を使って文章を書いてもらい、担当教員が添削します（授業中にパソコンかスマートフォンを使用しますが、機器を準備できない場合も対応します）。話し合いの時間も取りますので、論理的に話す練習にもなると思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	ネットや新聞などで見かけた気になるニュースを、見出しだけではなく全文読む。
テキスト	プリントを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方的な講義ではなく、ワークを中心に進めるので、積極的に授業に参加して下さい。課題は多いですが、論理的な文章を書く力は必ず役に立ちます。
評価方法	毎授業での課題の習熟度（100%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本語文書･表現プログラム（10560）　　授業コード：10560

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1	2	選択・教職必修
担当教員			
田中　宣廣			

授業のテーマ及び到達目標	①学術論文の構成法の基本，および，論述内容について理解できる。 ②現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法が理解できる。 ③パソコン利用に必要な日本語の文字の成り立ちやローマ字の仕組みについて理解できる。 ④社会人として，日本語のさまざまな社会的書き方の社会的役割を正しく認識し，理解できる。 ⑤コミュニケーションと文章表現の関係について理解できる。
授業計画	第1回　講義概要・計画の解説／学生論文編１：パソコン利用論文作成のメリットとその活用法 第2回　学生論文編２：研究論文における論述内容＋注釈で解説すること 第3回　学生論文編３：入門的論文としての卒業論文の構成例＋注釈の効果的使用法 第4回　学生論文編４：文章の階層構造とその表示法 第5回　学生論文編５：読み手が理解しやすい文章の構成とその留意点 第6回　学生論文編６：図表の作成と効果的提示法 第7回　学生論文編７：パソコンの基本操作とファイル管理やバックアップの重要性 第8回　基本強化編１：文字の定義，「漢字」の構成 第9回　基本強化編２：日本の文字の成り立ち 第10回　基本強化編３：「ひらがな」と「カタカナ」 第11回　基本強化編４：日本のローマ字＝５種類 第12回　社会文書編１：社会との接触における表現の注意点 第13回　社会文書編２：文書の自己アピールの表現～履歴書・志望理由・エントリーシート～ 第14回　社会文書編３：用件伝達の表現の注意点と作法～手紙・Eメール・電話～ 第15回　社会文書編４：社会的コミュニケーションの意義～まとめ：社会人となる心構え
授業概要	①学術論文の構成法の基本，および，論述内容について考察します。 ②現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法を考察します。 ③パソコン利用に必要な日本語の文字の成り立ちやローマ字の仕組みについて考察します。 ④社会人として，日本語のさまざまな社会的書き方の社会的役割を正しく認識し，考察します。 ⑤コミュニケーションと文章表現の関係について考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	《授業前》　配布資料《プリント》について，事前に目を通しておきましょう。 講次順に整理し，当該講とともに他講分も参照できるよう，用意してください。 《授業後》　講義内容についてあらためて自分なりに整理しておきましょう。
テキスト	教員作成配布資料《プリント》を用い，投影資料（パワーポイントなど）により進めます。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会人の文章として格式があって型式が整えられ，しかも，明解な文書表現を学びます。特に，パソコン利用の効果的な論文やレポートの書き方は，今や常識として学んでおく必要があります。 また，「集中講義」は時間の集中とともに，気持ちの集中も求められます。通常なら15週にわたり少しずつ考察を進めていく内容を，４日間で学ぶのは，気持ちの集中があってこそ成立します。
評価方法	毎講，「レポートシート」にその講の主旨を120字程度にまとめて記入し，提出していただきます。 評価は，学修姿勢（レポートシートの内容や受講態勢など）により考査します。 試験，また，（時間の掛かる）レポートは課しません。

参考文献	田中宣廣他（2011）『講座ＩＴと日本語研究　第１巻　コンピュータ利用の基礎知識』（明治書院） ISBN：9784625434389
備考	

講義科目名称：古典文学講読Ⅱ（10221）　　授業コード：10221

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
齋藤　奈美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	１．平安時代の物語文学の文化的背景について理解できる。 ２．物語文学の表現方法(和歌の技法、引歌、草子地など)について理解できる。 ３．辞書などを使って、古典を原文で読解することができる。
授業計画	第１回　『源氏物語』概説①(「成立と作者」―『紫式部日記』と『源氏物語』) 第２回　『源氏物語』概説②(「諸本」、「『源氏物語』の構造」) 第３回　「桐壺」巻講読　「冒頭表現と時代設定」(他作品の冒頭との比較) 第４回　「桐壺」巻講読　「桐壺更衣の紹介」①(更衣の身分と帝の寵愛) 第５回　「桐壺」巻講読　「桐壺更衣の紹介」②(桐壺更衣と弘徽殿女御についての記述の比較) 第６回　「桐壺」巻講読　「光源氏の誕生と更衣の苦悩」(建物から物語の記述を読み解く) 第７回　「桐壺」巻講読　「帝との別れ」(桐壺更衣の最期の和歌の解釈) 第８回　「桐壺」巻講読　「更衣の死―帝の悲嘆と母君への弔問」(帝と母君の更衣の死への思いの違い) 第９回　「桐壺」巻講読　「帝の哀傷と『長恨歌』」(『長恨歌』の引用と表現効果) 第10回　「桐壺」巻講読　「若宮参内―その才能と美貌」(主人公の超人的設定とその意味) 第11回　「桐壺」巻講読　「高麗人の観相―若宮、源姓を賜る」(『源氏物語』における予言と長編的構想) 第12回　「桐壺」巻講読　「藤壺の入内」(光源氏の生涯を決定づける人物の登場) 第13回　「桐壺」巻講読　「光源氏の元服と左大臣」(光源氏の政治的立場の確立) 第14回　「桐壺」巻講読　「光源氏、藤壺を恋慕」(光源氏の恋愛譚の基調) 第15回　「桐壺」巻講読　「結び」(『源氏物語』の長編的構想)
授業概要	『源氏物語』の概説をした上で、「桐壺」巻を講読します。文化的な背景や、和歌・語句・表現・引用などを解説して物語を逐語的に読解し、解釈上の問題点や、長編的な構想との関わりなどを考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）ISBN 9784044024017　税込価格880円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「桐壺」巻には、光源氏誕生までの経緯、類稀な美貌と才能・「帝王」の相を持ちながらの臣籍降下、義母藤壺への思慕など、『源氏物語』の長編的構想に関わる重大な事柄が描かれています。劇的な物語展開、巧みな伏線、登場人物の心情描写など、豊かな表現世界を伝えたいと思います。学生が興味を持って学習に取り組めるよう、毎回、各自の解釈や感想、疑問を書いてもらい講義に反映させる予定です。
評価方法	出席(15%)、提出物（15%）、筆記試験（70%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：古典文学講読Ⅲ（10231）　　授業コード：10231

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
佐々木　紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『保元物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。到達点は、１、歴史と歴史物語の相違、相似の諸相の理解、２、写本間の関係と物語の展開についての理解、３、合戦譚、英雄譚を生む文学的精神、環境の理解になります。
授業計画	第１回　導入　保元物語の歴史的背景 第２回　保元の乱の成立、諸本、作者像 第３回　『保元物語』と対象歴史史料 第４回　巻上講読一（乱の発端、崇徳院・藤原頼長） 第５回　巻上講読二（策士信西の登場、陰謀の深化） 第６回　巻上講読三（為義、その子英雄為朝の形象） 第７回　巻上講読四（英雄為朝一党の成立） 第８回　巻中講読一（合戦、清盛の惰弱、山田伊行の暴死） 第９回　巻中講読二（合戦、義朝・為朝兄弟対決） 第１０回　巻中講読三（乱戦、関東武士の群像） 第１１回　巻下講読一（敗走・頼長最期） 第１２回　巻下講読二（父為義の処刑） 第１３回　巻下講読三（幼児とその母の死） 第１４回　巻下講読四（為朝捕縛流罪） 第１５回　巻下（番外）為朝の冒険と最期
授業概要	保元の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、英雄為朝の活躍や源氏の遺児達の処刑場面に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのでは無く、歴史資料（『愚管抄』・『兵範記』等）との比較、保元物語の諸本（内容が異なる本、半井本・鎌倉本・京図本・竜門本・金刀比羅本、古活字本等）間の比較を通じて、立体的に物語を精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	愚管抄、兵範記の関係個所の読解、保元物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解
テキスト	コピーを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	さまざまな媒体で、源平合戦、あるいは保元の乱についてどこかで知ってゐる、キャラ萌えしてゐる貴女！『保元物語』がその根源ですぞ！ しかし歴史資料からする保元の乱の真相、『保元物語』諸本による事件展開、人物造型の相違等、今までとは異なる保元物語が起ち上がって来ると思ひます。 読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ　（｀谷´；）
評価方法	レポート（100%）
参考文献	授業で適宜指示
備考	

講義科目名称：古典文学作品研究Ⅰ（10241）　　授業コード：10241

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	１・２	２	選択必修
担当教員			
千野　裕子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	藤原定家作とされる『松浦宮物語』の特徴をつかみ、他作品との影響関係を理解し、その個性や魅力を自分の言葉で説明できるようになることを目指す。
授業計画	第1回　中世王朝物語概説 第2回　『松浦宮物語』に影響を与えた作品（１）『竹取物語』・『うつほ物語』 第3回　『松浦宮物語』に影響を与えた作品（２）『浜松中納言物語』 第4回　『松浦宮物語』概説 第5回　『松浦宮物語』巻一を読む（１）神奈備皇女との恋 第6回　『松浦宮物語』巻一を読む（２）唐で厚遇される 第7回　『松浦宮物語』巻一を読む（３）華陽公主との恋 第8回　『松浦宮物語』巻二を読む（１）戦乱が起こる 第9回　『松浦宮物語』巻二を読む（２）平和の回復 第10回　『松浦宮物語』巻二を読む（３）簫の女との出会い 第11回　『松浦宮物語』巻三を読む（１）簫の女との恋 第12回　『松浦宮物語』巻三を読む（２）帰国 第13回　『松浦宮物語』巻三を読む（３）物語の終わり 第14回　偽跋を考える 第15回　まとめ
授業概要	物語の重要な場面を中心にしつつも、可能な限り全文を読むことを目指す。特に『うつほ物語』『浜松中納言物語』などの先行作品との影響関係を中心に分析・解説を加えつつ、さまざまな角度からの解釈を提示する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内で示した様々な解釈を参考に、再読・再考をすることによって、問題点や自分の考えをノート等にまとめること。
テキスト	プリントを配布する
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	基本的には教員による解説が中心となろうが、授業を聴きながらしっかりと自身の頭を動かしてほしい。授業を通して考えたことを書いてもらい、それに教員が答えるという時間を作るので、そこで意見交換をしたい思っている。
評価方法	レポート（80%）、リアクションペーパーをはじめとする授業への参加度（20%）
参考文献	授業内で適宜紹介する
備考	

講義科目名称：古典文学作品研究Ⅱ（10251）　　授業コード：10251

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
齋藤　奈美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	１．平安時代の物語文学の文化的背景について理解できる。 ２．物語文学の表現方法(和歌の技法、引歌、草子地など)について理解できる。 ３．辞書などを使って、古典を原文で読解することができる。
授業計画	第1回　『源氏物語』概説①（「成立と作者」） 第2回　『源氏物語』概説②（「諸本」「『源氏物語』の構造」） 第3回　「末摘花」巻の位置づけ(「帚木三帖」とのつながり)　「末摘花」巻までの物語・登場人物について 第4回　「末摘花」巻講読　「末摘花の琴」―物語の発端 第5回　「末摘花」巻講読　「頭中将と姫君を争う」①（光源氏と頭中将の心の動きを読み解く） 第6回　「末摘花」巻講読　「頭中将と姫君を争う」②（光源氏と命婦の駆け引き） 第7回　「末摘花」巻講読　「末摘花と逢う」①（命婦の苦悩と手引きまでの展開） 第8回　「末摘花」巻講読　「末摘花と逢う」②（和歌の解釈と姫君への評価） 第9回　「末摘花」巻講読　「末摘花と逢う」③――逢瀬の後（後朝の文とその後の対応） 第10回　「末摘花」巻講読　「朱雀院の行幸」――重なり合う時間設定 第11回　「末摘花」巻講読　「末摘花の容貌」①――光源氏、末摘花を見る（容貌容姿の表現を読む） 第12回　「末摘花」巻講読　「末摘花の容貌」②――『源氏物語』の醜女（末摘花と空？の比較） 第13回　「末摘花」巻講読　「装束と末摘花」（時代遅れの姫君） 第14回　「末摘花」巻講読　「末摘花と紫の上」――「懲りずま」の物語（「平中墨塗滑稽譚」と「末摘花」） 第15回　「末摘花」巻講読　まとめ―末摘花のその後（笑われ者からの逆転）
授業概要	『源氏物語』の概説をした上で、「末摘花」巻を講読します。文化的な背景や、和歌・語句・表現・引用などを解説して物語を逐語的に読解し、解釈上の問題点や、構想との関わりなどを考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第2巻（角川ソフィア文庫）ISBN 9784044024024 税込価格880円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「光源氏は琴だけを友とする姫君に興味を持ち、琴の音を立ち聞きする。頭中将と争って、ついにその姫君と逢うが、実態は……」――「末摘花」巻は、そんな「滑稽失敗譚」です。「種明かし」までの巧みな物語展開、心理描写など『源氏物語』の豊かな表現世界を伝えていきたいと思います。学生が興味を持って学習に取り組めるよう、毎回、各自の解釈や感想、疑問を書いてもらい講義に反映させる予定です。
評価方法	出席(15%)、提出物（15%）、筆記試験（70%）

講義科目名称：古典文学作品研究Ⅲ（10261）　　授業コード：10261

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
佐々木　紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『平治物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。到達目標は、１、歴史と歴史物語の相違、相似についての理解、２、写本間の相違と文学の展開についての理解、３、合戦譚、英雄譚を生む文学精神、環境についての理解、になります。
授業計画	第１回　導入　平治の乱の歴史的背景 第２回　平治物語の成立・諸本・作者像、対象史料について 第３回　巻上講読一　不用者信頼と大学者信西 第４回　巻上講読二（焼討と信西最後の謎、その解明） 第５回　巻上講読三　清盛・重盛の造形 第６回　巻上講読四　物語の転機（光頼諫言・天皇脱出の虚実） 第７回　巻上講読五（信頼像の瓦解と悪源太の登場） 第８回　巻中講読一（重盛と義平の激突） 第９回　巻中講読二（六波羅の決選と源氏の敗北） 第１０回　巻中講読三（源氏壊走） 第１１回　巻中講読四（義朝の最期、頼朝の捕縛） 第１２回　巻下講読一（義平の潜伏と刑死、怨霊化） 第１３回　巻下講読二（頼朝助命、配流） 第１４回　巻下講読三（常盤の苦衷） 第１５回　巻下講読四（源氏開運）
授業概要	平治の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、藤原信頼、信西等の造型に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのでは無く、平治物語の諸本（内容が異なる本、陽明本・九条本、『平治物語絵詞』、金刀比等本）間の比較、他物語（『平家物語』・舞の本）との比較を通じて、立体的に物語を精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	愚管抄の関係個所の読解、平治物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解
テキスト	コピーを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史資料が不足してゐる為、平治の乱の真相は不明な所が多いのです。また源氏の敗北と悲話の部分には、民間伝承の反映が予想され、『保元物語』とも異なります。 それでも謎の多い魔術師信西の自害、後白河院の脱出、源氏名刀伝説等、物語として興味深いです。 読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ　（｀谷´；）
評価方法	レポート（100%）
参考文献	授業中、適宜指示
備考	

講義科目名称：古典文学特講Ⅰ（10271）　　授業コード：10271

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	１・２	２	選択必修
担当教員			
千野　裕子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代後期に成立した『浜松中納言物語』の特徴をつかみ、他作品との影響関係を理解し、その個性や魅力を自分の言葉で説明できるようになることを目指す。
授業計画	第1回　『浜松中納言物語』概説 第2回　『浜松中納言物語』に影響を与えた作品（１）『竹取物語』 第3回　『浜松中納言物語』に影響を与えた作品（２）『うつほ物語』俊蔭巻 第4回　『浜松中納言物語』散逸首巻について 第5回　『浜松中納言物語』巻一を読む（１）三の皇子との邂逅 第6回　『浜松中納言物語』巻一を読む（２）唐后との恋 第7回　『浜松中納言物語』巻二を読む（１）大宰大弐の女 第8回　『浜松中納言物語』巻二を読む（２）尼姫君との再会 第9回　『浜松中納言物語』巻三を読む（１）吉野の尼君の登場 第10回　『浜松中納言物語』巻三を読む（２）皇女降嫁の沙汰 第11回　『浜松中納言物語』巻四を読む（１）吉野の姫君との恋 第12回　『浜松中納言物語』巻四を読む（２）式部卿宮の好色 第13回　『浜松中納言物語』巻五を読む（１）唐后転生の予告 第14回　『浜松中納言物語』巻五を読む（２）物語の終わり 第15回　まとめ
授業概要	物語の重要な場面を中心にダイジェスト的に読み進めていく。特に『うつほ物語』『源氏物語』などの先行作品との影響関係を中心に分析・解説を加えつつ、さまざまな角度からの解釈を提示する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内で示した様々な解釈を参考に、再読・再考をすることによって、問題点や自分の考えをノート等にまとめること。
テキスト	プリントを配布する
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	基本的には教員による解説が中心となろうが、授業を聴きながらしっかりと自身の頭を動かしてほしい。授業を通して考えたことを書いてもらい、それに教員が答えるという時間を作るので、そこで意見交換をしたい思っている。
評価方法	レポート（80%）、リアクションペーパーをはじめとする授業への参加度（20%）
参考文献	授業内で適宜紹介する
備考	

講義科目名称：古典文学特講Ⅱ（10281）　　授業コード：10281

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
石黒　志保			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	勅撰和歌集『新古今和歌集』所収の和歌を詠み解くことで、当時の言語表現や感情の表し方について学びます。講義を通して「和歌」とはなにか、を自らで考え、発表報告することを目的とします。また発表者の報告を聞き、積極的な質疑応答を行うことで、和歌への理解を深めることを望みます。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　中世和歌論概説 第３回　『新古今和歌集』仮名序・真名序 第４回　『新古今和歌集』春歌上・下 第５回　『新古今和歌集』夏歌 第６回　『新古今和歌集』秋歌上・下 第７回　『新古今和歌集』冬歌 第８回　『新古今和歌集』賀歌・哀傷歌 第９回　『新古今和歌集』離別歌・羈旅歌 第１０回　『新古今和歌集』恋歌一・二 第１１回　『新古今和歌集』恋歌三・四・五 第１２回　『新古今和歌集』雑歌上・中・下 第１３回　『新古今和歌集』神祇歌 第１４回　『新古今和歌集』釈教歌 第１５回　まとめ
授業概要	勅撰和歌集『新古今和歌集』を、発表者による輪読・研究報告を中心に読解を進めます。進め方や発表の方法については、第1回ガイダンス時に受講者とともに相談の上、決めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	自身の発表前には、和歌を熟読し、先行研究や語句・用例の調査をしっかりと行なった上で、望んでください。
テキスト	久保田淳訳注『新古今和歌集』上下、角川ソフィア文庫、各933円（税別）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講を考えている方は、必ず第１回目のガイダンスに参加ください。発表の順番や方法について決めますので、もし欠席された場合は早めに教員に相談してください。
評価方法	発表報告・討論への参加度（30%）、期末レポート（70%）
参考文献	適宜、授業内で紹介する。
備考	

講義科目名称：古典文学特講Ⅲ（10291）　　授業コード：10291

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
佐々木　紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	昔話と口承文学との関係、特に東アジア伝来の口承文芸を視野に入れて、成立、共通性、日本の独自性について考察する。到達目標は、１、昔話の存在形式についての理解、２、昔話解釈の諸方法（その歴史）についての理解、３、日本昔話と朝鮮昔話との共通性の理解、になります。
授業計画	第1回　導入―昔話とは？享受の現状、魅力とは？ 第2～3回　口承文芸全般の中の昔話（伝説、語り物等との関係） 第4～8回　昔話研究史（グリム兄弟、人類学説、地理伝播説、文芸学的分析、精神分析的方法） 第9～10回　日本、朝鮮、中国の口承文芸の概観 第11～12回　法明童子と沈清伝 第13～14回　酒呑童子と韓国の昔話 第15回　まとめ
授業概要	国内の昔話研究が確立まで、比較研究は差し控へるといふのが、柳田国男の提言でした。然るに近年、中国・韓国・モンゴル・チベットの昔話が多く紹介され、日本の昔話、及び中世の物語との近似が注目されてをります。前半では、昔話とはどのような言説なのか研究史を辿り、後半は中世の物語と日本の口承文芸、更には東アジアの口承文芸との比較を試みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日本の昔話集は各種あります。適宜読んでゐて下さい。
テキスト	コピー配ります
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まさか、アノ物語が、韓国の昔話・芸能とクリソツなんて！
評価方法	レポート（100%）
参考文献	鵜野祐介『日中韓の昔話―共通話型三〇選』 崔仁鶴『韓国昔話集成』1～８ 『日本昔話通観　研究編１　日本昔話とモンゴロイド―昔話の比較記述―』
備考	

講義科目名称：近現代文学講読Ⅰ（10411）　　授業コード：10411

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
千葉　正昭			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本近代文学に大きな足跡を残した自然主義文学田山花袋初期の代表的2作品を、じっくり読み理解をはかりたい。赤裸々な内面生活を告白する方法とは、どのようなものであったのか。作品を丹念に読んでいくことで、ナイーヴな感受性や明治日本の精神の一端を理解することを目標とする。
授業計画	第1回　田山花袋の評伝 第2回　田山花袋とその時代 第3回　田山花袋と外国文学 第4回　「蒲団」　その1 第5回　「蒲団」　その2 第6回　「蒲団」　その3 第7回　「蒲団」　その4 第8回　「蒲団」　その5 第9回　「蒲団」　その6 第10回　「重右衛門の最後」　その1 第11回　「重右衛門の最後」　その2 第12回　「重右衛門の最後」　その3 第13回　「重右衛門の最後」　その4 第14回　「重右衛門の最後」　その5 第15回　「重右衛門の最後」　その6／レポート提出
授業概要	教員が、かなりの部分を解説する。ただ集まった学生の中から意欲的な希望がでれば、授業の様式を話し合いで柔軟に変容することも考えている。テキストは、理解しやすい内容で文学的面白さも抱えているので積極的な姿勢を期待したい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週のページを指定するので、予め読み問題点を整理する。授業を踏まえ、主題や重要箇所をノートに整理する。関係した外国作家なども調べ視野を広げるよう心掛ける。
テキスト	購買部で販売／新潮文庫『蒲団・重右衛門の最後』田山花袋著　460円＋税　ISBN978-4-10-10790-1
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	1、皆さんが勉強してきた文学史の授業とどう重なるか。 2、授業で伝えたいことを明確にしていきたい。 3、明治時代の因習などにも気を配って取り組んでみよう、面白い発見があるかもしれない。
評価方法	質疑応答20％、レポート80％。
参考文献	吉田精一著「自然主義の研究」上・下　東京堂／中村光夫著「風俗小説論」新潮文庫／これらは図書館に在庫あり。その他、授業中に指示する。
備考	

講義科目名称：近現代文学講読Ⅱ（10421）　　授業コード：10421

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
今井　瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	西加奈子『円卓』を一度読み通した後、家族と居住空間に関する歴史的文脈を学び、再び『円卓』を読みます。到達目標は以下の三つです。①長編小説を読み通す力を身につける。②長編小説を二回読むことで、一回目では気がつかなかった細部を発見する。③歴史的背景に小説を位置付けることで新たな「読み」を発見する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　映画『家族ゲーム』（1983年）を見る 第３回　家族とは何か：「近代家族」論を学ぶ講義 第４回　西加奈子『円卓』精読① 第５回　西加奈子『円卓』精読② 第６回　西加奈子『円卓』精読③ 第７回　家族と居住空間①：団地と家族（映画『私は二歳』） 第８回　家族と居住空間②：団地と家族（映画『しとやかな獣』） 第９回　家族と居住空間③：家族の壊し方（映画・テレビドラマ『家族ゲーム』と映画『逆噴射家族』） 第10回　家族と居住空間④：団地の主婦たち（小説・映画『OUT』） 第11回　家族と居住空間⑤：団地の子どもたち（映画『どこまでもいこう』） 第12回　映画『円卓、こっこひと夏のイマジン』（2014年）を見る 第13回　西加奈子『円卓』精読④：「かっこええ」問答と8月15日 第14回　西加奈子『円卓』精読⑤：「成長」はいいことなのか？ 第15回　まとめ
授業概要	西加奈子『円卓』を二回読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	西加奈子の他の作品も読んでみて下さい。
テキスト	西加奈子『円卓』（文春文庫、2013年、550円、ISBN978-4-16-786101-8） ※購買で購入できます、西加奈子『円卓』であれば他の版でも問題ありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初の「読み」を大切にしつつ、歴史的文脈を知ることで、より楽しく小説を読むことができるようになると思います。担当教員が振り返りシートを２～３回ほど確認し、応答する時間を取ります。自身の「読み」を積極的に発信して下さい。
評価方法	授業振り返りシート（10%）、中間レポート（30%）、最終レポート（60%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学作品研究Ⅰ（10431）　　授業コード：10431

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
奥村　華子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	明治時代から現代まで、「働くこと」を題材した作品を読むことを通し、その職業や「働くこと」が当時の社会においてどのように捉えられていたかを理解することができる。同時に、小説を分析する基礎的方法を学び読解に生かすことで、「働くこと」や「働かないこと」について私たちを取り巻く社会的な認識や規範について、より発展的に考え、意見を述べることができるようになる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　戦争と職務①――泉鏡花「海城発電」 第3回　戦争と職務②――泉鏡花「海城発電」 第4回　戦争と職務③――井伏鱒二「遥拝隊長」 第5回　戦争と職務④――井伏鱒二「遥拝隊長」 第6回　女性と職業①――吉屋信子「ヒヤシンス」 第7回　女性と職業②――吉屋信子「ヒヤシンス」 第8回　女性と職業③――岡本かの子「老妓抄」 第9回　女性と職業④――岡本かの子「老妓抄」 第10回　サラリーマンという立場①――庄野潤三「プールサイド小景」 第11回　サラリーマンという立場②――庄野潤三「プールサイド小景」 第12回　主夫の生活①――角田光代「橋の向こうの墓地」 第13回　主夫と生活①――角田光代「橋の向こうの墓地」 第14回　「普通」の仕事――村田沙耶香「コンビニ人間」 第15回　全体のまとめ
授業概要	教員による講義を中心に、履修者にはグループディスカッションやコメントシートの提出を行なってもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	扱う作品は事前に配布するので、通読してくること。議論の際に自分の意見を述べられるよう作品についての感想を整理すること。
テキスト	授業中に適宜提示します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古い作品もありますが、そこに登場する職業は現代の私たちの社会においても形を変えて残っており、皆さんにとっても想像しやすいのではないかと思います。作品をじっくりと読み進めながら、講義やディスカッションを通し、「働くこと」「働かないこと」の両面を考えることによって、私たちが無意識のうちに持っている認識についても捉え直してみましょう。
評価方法	授業時の発言やコメントシート（50%）、レポート課題（50%）
参考文献	授業中に適宜提示します。
備考	

講義科目名称：近現代文学作品研究Ⅱ（10441）　　授業コード：10441

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
今井　瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	川端康成『山の音』を一度読み通した後、川端に関するこれまでの研究成果を学び、再び『山の音』を読みます。到達目標は以下の三つです。①長編小説を読み通す力を身につける。②長編小説を二回読むことで、一回目では気がつかなかった細部を発見する。③文学研究の蓄積を学んだ上で新たな「読み」を発見する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　川端康成とは何者か①：川端康成の幼年・青年期を学ぶ講義 第３回　川端康成とは何者か②：川端康成の作家活動を学ぶ講義 第４回　川端康成『山の音』精読①：「山の音」、「蝉の羽」、「雲の炎」、「栗の実」 第５回　川端康成『山の音』精読②：「島の夢」、「冬の桜」、「朝の水」、「夜の声」 第６回　川端康成『山の音』精読③：「春の鐘」、「鳥の家」、「都の苑」、「傷の後」 第７回　川端康成『山の音』精読④：「雨の中」、「蚊の群」、「蛇の卵」、「秋の魚」 第８回　戦後小説としての『山の音』 第９回　家族小説としての『山の音』 第10回　妊娠小説としての『山の音』 第11回　映画『山の音』（1954年）を見る 第12回　妊娠映画としての『山の音』 第13回　川端康成『山の音』精読⑤：あらすじを書く・読む 第14回　川端康成『山の音』精読⑥：戦後とアメリカ 第15回　『山の音』をテキストマイニングする、まとめ
授業概要	川端康成『山の音』を二回精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	川端康成の他の作品も読んでみて下さい。
テキスト	川端康成『山の音』（新潮文庫、1957年、781円、ISBN978-4-10-100242-2） ※購買で購入できます、川端康成『山の音』であれば他の版でも問題ありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初の「読み」を大切にしつつ、歴史的文脈を知ることで、より楽しく小説を読むことができるようになると思います。自身の「読み」を積極的に発信して下さい。
評価方法	議論への貢献度（20%）、中間レポート／発表（40%）、最終レポート（40%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学特講Ⅰ（10451）　　授業コード：10451

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
千葉　正昭			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	太宰治の中期作品を取り上げていく。昭和10年前後に登場した太宰治は、自己の体験を物語の中に取り入れつつも明治・大正・昭和初年代の私小説とは違った虚構化を図ろうとした。それがどのような構造をもった作品になっているのか、ゆっくりと検証していきたい。作品の妙味を理解できることを、目標としたい。
授業計画	第1回　太宰治の伝記 第2回　太宰治とその時代 第3回　先行研究の解説 第4回　「姥捨」 第5回　「黄金風景」 第6回　「畜犬談」 第7回　「おしゃれ童子」 第8回　「皮膚と心」その１ 第9回　「皮膚と心」その２ 第10回　「？」 第11回　「善蔵を思う」 第12回　「きりぎりす」 第13回　「風の便り」その１ 第14回　「風の便り」その２ 第15回　「水仙」　教員解説／レポート提出
授業概要	中期の作品を、じっくり読むことを狙いとしたい。丁寧に文章そのものに対峙し、主題のようなものを解読する。その間に作品が抱える様式特徴を理解する。複数の人や個人でもいいので肩の力を抜いて、自分で理解した内容を簡単におしゃべりをしてみよう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	1．次の週に扱う作品を、予め読み問題点を考えておく。 2、授業を踏まえて主題をもう一度自分なりに整理しておく。 3、関わりのあった別の作品を調べる。
テキスト	購買部で販売／新潮文庫『きりぎりす』太宰治著　570円＋税　ISBN-4-10-100613-0
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	分かりやすく先行研究などを紹介していくので、はじめの3回は出席してこんな資料を確認すればよいのかと考えて欲しい。講義中心だが、もし受講生の意欲がうかがえればかたちを変容することも考えている。
評価方法	質疑応答20%、レポート80%。
参考文献	授業でその都度指示していく。
備考	積極的な参加が皆さんを成長させることは間違いありません。

講義科目名称：近現代文学特講Ⅱ（10461）　　授業コード：10461

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
今井　瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	主に「近現代文学」を書かれた歴史的・社会的背景や、映画・アニメなど他のメディアとの関係に目を配りながら読み解いていきます。到達目標は以下の三つです。①小説や映画、アニメの細部を丁寧に読み解くことで、自身の「読み」を作り出す力を身につける。②自分の「読み」を発信する力と、他の人の多様な「読み」を聞く力を身につける。③歴史的・社会的・メディア的背景へ目を向けることで、自身の「読み」を別の視点から捉えなおし、相対化する力を身につける。
授業計画	第１回　ガイダンス：文学的なことは社会的なこと 第２回　「文豪」はつくられる 第３回　志賀直哉『暗夜行路』を「戦後」に読む 第４回　「内向の世代」の空間 第５回　三島由紀夫は映画に「敗北」したか 第６回　中間のまとめ：「文豪」の時代の終わり 第７回　文学と文学と映画に描かれた病①：堀辰雄『風立ちぬ』 第８回　文学と映画に描かれた病②：松本清張『砂の器』 第９回　映画『ドグラ・マグラ』（松本俊夫監督、1988年）を見る 第10回　文学と映画に描かれた病③：夢野久作『ドグラ・マグラ』 第11回　SFの現代性：大江健三郎『治療塔』・『治療棟惑星』 第12回　映画『息の跡』（小森はるか監督、2016年）を見る 第13回　3.11震災文学と震災ドキュメンタリー映画：津島佑子『半減期を祝って』と『息の跡』 第14回　戦争の記憶の「現在」：村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』 第15回　まとめ
授業概要	戦後以降の小説を多角的に捉えることで、いま小説を読むことの意味について考えたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で扱う作品は可能な範囲で目を通してください。
テキスト	資料をダウンロードできるようにします。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生の関心に合わせて可能な限り言及する作家・小説を増やします。担当教員が振り返りシートを２～３回ほど確認し、応答する時間を取ります。積極的に意見を発信してください。
評価方法	振り返りシート（30%）、レポート（70%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：音声表現法Ａ（10512）　　授業コード：10514

英文科目名称：Phonetics of Japanese Language Phase A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
山本　淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業のテーマは「ヒトが音声をどのように放射して感知するのか全体的な仕組みを理解する」ことです。 受講を通して、ヒトの発する音声について、 ①物理的側面から発声から実音に到る仕組みの全容が理解できます ②聴覚的にどのように音声を捉えるのかその全体像が把握できます うえの2点は最終到達目標でもありますので、各回ごと少しずつですが、理解の範疇を拡げてゆきましょう。
授業計画	第1回　導入　言語形成期と言語歴 受講者自身の言語形成についての内省･記述 第2回　話し言葉の音声①　ーオトとオンとー 「音」の二面性 第3回　話し言葉の音声②　ー音の種類ー 音全体の中の音声の占める位置 第4回　音声器官 音声を形成するヒトの音声器官の部位と役割 第5回　音の分類と分析方法 ヒトの発する音の性質と分類方法 第6回　音の強さと大きさ 音の物理的強さ、聴覚的大きさ 第7回　音の強さの尺度 音圧、デシベル、音のスペクトル 第8回　音の刺激量 フェヒナーの法則､ウェーバーの法則 第9回　音の高さ オクターブ感覚、メル尺度、聴覚器官の構造、聴覚フィルタ 第10回　母音の生成としくみ 喉頭原音、構音･調音、基音･倍音 第11回　母音･鼻音とフォルマント ソース･フィルタモデル、鼻音フォルマント 第12回　子音の分類 子音分類の三基準 第13回　共鳴音の調音 共鳴音のスペクトログラム 第14回　阻害音の調音 阻害音のスペクトログラム 第15回　まとめ 第１～１４回の講述内容のおさらいとポイントの解説
授業概要	そもそも「音声」とは何か、音声はどのように発信されどのように受容されるのか、音声の放射と感知の実態を詳しく観察する
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	基礎音声学に関する専門用語･専門知識について、毎時消化吸収するよう練習問題を提示しますので、確実にこなしてください
テキスト	スライドによる講述につきハンドアウトを用意します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教職必修科目ですので、受講制限が必要になった場合は、教職希望者を優先します スライド使用で授業を進めます 必要の際は、チームズの掲示板にアウトラインを掲示しますので、適宜参照してください
評価方法	毎時提示する練習問題は提出(ワークシート使用)を求めます その成果(100%)により評価いたします
参考文献	城生伯太郎･福盛貴弘･齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 服部四郎『音声学』（岩波書店） 川上蓁『日本語音声概説』（おうふう） 川原繁人『ビジュアル音声学』（三省堂）
備考	

講義科目名称：音声表現法Ａ（10512）　　授業コード：10515

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
小峰　克之			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業では、調音音声学を中心に日本語の音声について学ぶことをテーマとしている。 到達目標１　調音音声学の基本を理解する。 ２　日本語の音声を調音音声学に則って説明できる。 ３　日本語の音声に関わる諸問題を説明できる。
授業計画	第１回　導入　調音音声学とは何か 第２回　母音の発音 第３回　子音１　破裂音 第４回　子音２　摩擦音と破擦音 第５回　子音３　鼻音と弾音 第６回　五十音図と音 第７回　撥音の問題 第８回　その他の特殊音 第９回　無声化と直音化 第１０回　変音現象 第１１回　外来語の問題 第１２回　アクセントの基本 第１３回　アクセントの変化 第１４回　地域差の問題 第１５回　まとめ
授業概要	音声の授業なので理論を学ぶことは勿論、音声の実演も行ってもらう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	調音音声学の基礎を学んでもらいますが、その過程で実際に音声の実演を行ってもらいます。実際に声に出すのは恥ずかしいかもしれませんが、積極的に取り組んでください。
評価方法	提出物（70%）、発音の実演や授業での発言（30%）で評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：音声表現法Ｂ（10516）　　授業コード：10516

英文科目名称：Phonetics of Japanese Language　Phase B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
山本　淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業のテーマは「日本語音声の実相と音声たらしめている音の観念とについて理解する」ことです。 この授業の受講を通じ、日本語音声の実相と観念上の音に関して、 ①子音と母音とに分けてそれぞれの調音的・物理的特徴が解ります ②受講生自身の話し言葉を内省する機会となり、音声的・超分節素的特徴が解ります また、上記①②は最終到達目標でもあります。
授業計画	第1回　母音の調音音声学的記述①　―短母音･長母音･連母音― 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第2回　母音の調音音声学的記述②　―母音の無声化― 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第3回　五十音図の音声学的分析 五十音図の構造を音声学的に解析する 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第4回　子音の有標性 子音らしさと母音っぽさ 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第5回　注意すべき子音の調音 硬口蓋化子音とサ行･タ行･ナ行･ハ行子音 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第6回　ガ行濁子音・合拗音 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第7回　四つ仮名の歴史的展開 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第8回　無声子音の有声化・開拗音の直音化 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第9回　音声と音素 異音、音素、相補分布 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第10回　特殊拍とその音声 特殊拍の音声学的記述とその理解 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第11回　語の清濁と連濁 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第12回　日本語音韻の歴史的変遷 サ行子音･ハ行子音の歴史的展開、音節数の変化 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第13回　日本語のアクセント アクセント核、有核･無核アクセント、アクセントの型 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第14回　全国の音声･音韻・アクセント 東部方言、西部方言、九州方言 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】 第15回　まとめと筆記試験の説明 第１４回の補遺(琉球方言)と全体のまとめ 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】
授業概要	日本語の音声･音韻･アクセントについて、受講生の話し言葉を観察しつつ、その特質・特徴について理解を深める
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	「音声表現法A」同様、音声学に関する専門用語･専門知識について、毎時消化吸収するよう練習問題を提示します 各回確実にこなしてください
テキスト	スライドによる講述につきハンドアウトを用意します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「音声表現法A」同様、教職必修科目ですので、受講制限が必要になった場合は、教職希望者を優先します スライド使用で授業を進めます 必要の際は、チームズの掲示板にアウトラインを掲示しますので、適宜参照してください
評価方法	「音声表現法A」同様、毎時提示する練習問題は提出(ワークシート使用)を求めます その成果(50%)と試験期間中に実施するペーパーテスト(50%)と併せて総合的に評価します

参考文献	城生伯太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 服部四郎『音声学』（岩波書店） 川上蓁『日本語音声概説』（おうふう） 川原繁人『ビジュアル音声学』（三省堂）
備考	

講義科目名称：音声表現法Ｂ（10513）　　授業コード：10517

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
小峰　克之			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業のテーマは音声表現の実演とその考察である。 到達目標１　一般的な談話表現と朗読の相違点を理解できる。 ２　アクセントやフレージングを意識してしっかりした音読ができる。 ３　教育における音読の効果を説明できる。
授業計画	第１回　導入　アクセントと文章 第２回　フレージング 第３回　解釈と音読 第４回　児童教育の場合 第５回　近代小説の朗読例 第６回　朗読の実践 第７回　朗読の注意点 第８回　談話表現 第９回　口語資料 第１０回　話芸 第１１回　脚本 第１２回　台詞の実演 第１３回　脚本の難しさ 第１４回　画像による制約 第１５回　まとめ
授業概要	この授業は朗読などの音声表現の実演と、その特性や注意点などの考察という二つの柱からなる授業であり、履修者は朗読などの実演を数回行うことになる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では朗読などの実演があります。他人の文章を音読することは日常的にはあまりないことですが、実際にやってみると新たな発見があるかもしれませんので、ぜひ積極的に授業に参加してください。。
評価方法	授業での実演（70%）、提出物や授業での発言（30%）で評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：国語資料講読（10532）　　授業コード：10532

英文科目名称：Reading of Sourcebook on Japanese Linguistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
山本　淳			

授業のテーマ及び到達目標	初期江戸語(関東方言)によって書かれた文献について、国語学的に講読します。 この授業の受講を通じ、 ①いわゆる古典文学とは異なる文章体を扱いますが、近世の諸文章様式の違いが解ります ②文章のアウトラインを掴み、言葉を逐って読むことが身につきます ③近世当時の中央語の流れについて理解できます 上記3点を最終到達目標といたします。
授業計画	第1回　近世語の諸相 第2回　初期江戸語資料について 第3回　『雑兵物語』の資料性 第4回　『雑兵物語』の諸本 第5回　『雑兵物語』を読む①　ー文末表現に注意してー 第6回　『雑兵物語』を読む②　ー接続表現に注意してー 第7回　『雑兵物語』を読む③　ー東国方言語彙ー 第8回　『雑兵物語』を読む④　ー奴言葉についてー 第9回　『雑兵物語』を読む⑤　ー上方語的特徴ー 第10回　『雑兵物語』を読む⑥　―日常的な言葉遣いと開かれた場での言葉遣い― 第11回　『雑兵物語』を読む⑦　ー諸国方言との関連性ー 第12回　『雑兵物語』を読む⑧　―伝統的文法と初期江戸語文法と①― 断定表現の推移 第13回　『雑兵物語』を読む⑨　―伝統的文法と初期江戸語文法と②― 否定表現の推移 第14回　『雑兵物語』を読む⑩　―伝統的文法と初期江戸語文法と③― 推量表現の推移 第15回　『雑兵物語』を読む⑪　―伝統的文法と初期江戸語文法と④― 禁止表現の推移
授業概要	授業担当者による講読と、受講生による輪読と、併行して進めます 受講生による輪読では、テキストを音読し、概要についての理解を促します
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了直前に予告します 指定テキストを事前に読み、難解な点について抽出しておいてください 授業後はテキストを読み返し、本文理解の定着に勉めてください
テキスト	必要に応じて印刷し適切な折に配付します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業担当者による講読では、トピックごとに整理しながら読むこととします 受講生にも担当範囲を事前に決めて読むように、計画的に進めたいと思います
評価方法	適宜レポート提出を求め、それにより(100%)評価いたします
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語大事典』（朝倉書院）
備考	

講義科目名称：国語学特講（10550）　　授業コード：10550

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
山本　淳			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	「国語史・国語学史」とはどういう領域の研究なのか、その概要を掴み、大きな流れを辿ることをテーマとします この授業の受講を通じて、国語(日本語)変化ならびに国語研究史の大きな流れが解ります また、国語という意識の芽生えた時期、国語の研究の爛熟した江戸時代の様相を中心にした研究の潮流が掴めます
授業計画	第1回　国語と日本語、現代語と古語 導入 第2回　仮名遣いの研究① 定家仮名遣いと『下官集』 第3回　仮名遣いの研究② 行阿『仮名文字遣』 第4回　仮名遣いの研究③ 『和字正濫鈔』と『古言梯』 第5回　仮名遣いの研究④ 本居宣長『字音仮字用格』～義門『於乎軽重義』 第6回　仮名遣いと音韻① 本居宣長『古事記伝』～石塚龍麿『仮名遣奥山路』～草鹿砥宣隆『古言別音抄』 第7回　仮名遣いと音韻② 奥村栄実『古言衣延弁』 第8回　仮名遣いと音韻③ 『蜆縮凉鼓集』と四つ仮名問題 第9回　てにをは研究① 『手爾葉大概抄』と『抄之抄』 第10回　てにをは研究② 『弖爾乎波義慣鈔』と『てには網引綱』 第11回　てにをはと係結研究① 本居宣長『ひも鏡』と『詞の玉緒』 第12回　てにをはと係結研究② 義門『友鏡』と『玉緒繰分』 第13回　てにをはと係結研究③ 萩原広道『てにをは係辞弁』 第14回　品詞論① 富士谷成章『かざし抄』と『あゆひ抄』 第15回　品詞論② 鈴木朗『言語四種論』
授業概要	
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了時に触れるので、指定テクストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておくこと。授業終了後再びテキストを読み直し、重要項目について整理し、さらに練習問題で理解度を確認しておくこと。
テキスト	必要箇所を印刷して渡します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学年指定の特定は示しておりませんが、「国語学概論」受講後の方が理解が早いかと思いますので、なるべく２年次での履修を切望します。
評価方法	毎時間に実施する確認レポートの状況（5割） 試験期間中に行う筆記試験（5割）
参考文献	『日本語学研究事典』(明治書院) 『日本語学キーワード事典』(朝倉書店) 『日本語百科大事典』(大修館書店)
備考	

講義科目名称：日本語文化論（10561）　　授業コード：10561

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
小峰　克之			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この授業は日本語における文化的側面を考えることをテーマとする。 到達目標１　文化的側面を意識して日本語を捉えることができる。 ２　外国語と比較して日本語の特性を考えられる。 ３　文化の違いを考慮に入れて日本語教育を考えることができる。
授業計画	第１回　導入　言葉と文化 第２回　外国語との出会い 第３回　翻訳の影響 第４回　最初の外国語 第５回　漢字語の力 第６回　留学生の実像 第７回　留学生への日本語教育 第８回　待遇表現の特徴 第９回　ハイコンテクストとローコンテクスト 第１０回　誤用の背景 第１１回　誤用の判定基準 第１２回　留学生の質問 第１３回　書き言葉と話し言葉 第１４回　敬語の交錯 第１５回　まとめ
授業概要	授業では異国の文化や言語を通して日本語の特性を考える。最初の5回は日本人が外国語を学習する場合、第6回からは留学生に日本語を教える場合を題材に、具体例や資料を使いながら、言語や文化に関わる諸問題について考えていく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	身近な例やよく見聞きすることなどから話を展開していきますので、そういったちょっとした事柄を普段から意識していると、いろいろ気付くことがあると思います。それらについて授業で発言したり、考えたりしてもらえればと思っています。
評価方法	レポート（50%）、授業での提出物と質疑応答など授業での発言（50%）で評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：日本語運用スキルアップゼミ（10562）　　授業コード：10561

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
小峰　克之			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業のテーマは、日本語のスキルをレベルアップすることである。 到達目標1　文字や記号、書式、文体など基礎的事項を理解する。 2　曖昧な表現を避け、自分の意図を受け手に正しく伝えることができる。 3　自分の考えを根拠をもって論理的に文章にすることができる。
授業計画	第１回　導入　悪文とは何か 第２回　様々な文体 第３回　文字と記号 第４回　漢語と和語 第５回　文の成分の利用法 第６回　曖昧な表現の回避 第７回　複数の解釈が可能な文 第８回　文の長さ 第９回　文の接続と段落 第１０回　アウトラインの利用 第１１回　文章の要約 第１２回　文章作成上の注意点 第１３回　文章を作成する 第１４回　ピアレスポンスとフィードバック 第１５回　まとめ
授業概要	授業の前半では様々な例文や問題を解きながら、誤解されないように表現するにはどうすればよいか考える。 第10回からは実際に要約や文章作成に取り組んでもらう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、自分の考えを相手に誤解されることなく伝える方法を考えていきます。「良い」「美しい」「正しい」というよりも「正確な」という視点で考えていきますので、時々面食らうこともあるかと思いますがすぐに慣れると思います。また、この授業では日本語検定２級の受験を推奨していますので、興味のある方は検定試験に挑戦してみましょう。
評価方法	授業の後半に実際に文章を作成してもらうが、それを含めて授業内の提出物が各種あるので、それによって評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：漢文学概説（10600）　　授業コード：10600

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択・教職必修
担当教員			
渡部　東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	＜授業のテーマ＞ 　漢文学入門 ＜到達目標＞ ・漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎知識を身に付けることができる。 ・漢文学が日本語や日本人に与えた影響について知見を深めることができる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　漢文・漢文学の定義と漢字・漢語(熟語)の基礎知識 第3回　漢文の基本構造と訓読法(返り点の用法と種類・書き下し文・置き字) 第4回　句法の基本型：再読文字・使役形・受身形 第5回　句法の基本型：否定形 第6回　句法の基本型：疑問形・反語形 第7回　句法の基本型：願望形・推量形 第8回　句法の基本型：仮定形・比較形・抑揚形 第9回　句法の基本型：限定形・累加形・詠嘆形・倒置形 第10回　近体(今体)詩の修辞法 第11回　日本人と漢文学：上代、平安前期 第12回　日本人と漢文学：平安後期、鎌倉・室町 第13回　日本人と漢文学：江戸前期 第14回　日本人と漢文学：江戸後期 第15回　日本人と漢文学：明治以降
授業概要	10回目までは、漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎事項を学んだ上で練習問題に取り組んでもらい、基礎知識の確認・定着を図ります。11回目以降は、日本における漢文学の歴史を概観し、漢文学が日本語や日本人に与えた影響について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後には必ず復習を行い、十分に理解を深めること。なお、10回目までは配布プリントの原文について、あらかじめ辞書等で調べ、書き下し文及び現代語訳を準備してくること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校での既習・未習を問わず、この機会に漢文学の基礎をしっかりと身に付けたいと考える学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(70%)、授業時の取り組む姿勢(30%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞書も可)を持参してください(2回～10回)。

講義科目名称：漢文学講読（10611）　　授業コード：10611

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
渡部　東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	＜授業のテーマ＞ 　中国古典文学の世界 ＜到達目標＞ ・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。 ・日本人や日本文学に有形無形の影響を与えてきた中国古典文学の概要を把握するとともに、作品が書かれた、それぞれの時代の社会や文化に対する理解を深めることができる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　『史記』淮陰侯列伝から 第3回　『論語』から 第4回　『老子』から 第5回　『荘子』から 第6回　東晋・陶淵明「桃花源記」「五柳先生伝」 第7回　東晋・王羲之「蘭亭序」 第8回　唐・李白「春夜宴桃李園序」、唐・韓愈「雑説二」 第9回　唐・韓愈「雑説二・四」 第10回　唐・柳宗元「種樹郭タク駝伝」 第11回　唐・柳宗元「種樹郭タク駝伝」 第12回　北宋・欧陽脩「酔翁亭記」 第13回　北宋・欧陽脩「酔翁亭記」 第14回　明・帰有光「貞女論」 第15回　明・帰有光「貞女論」
授業概要	中国古典文学の中から、古来、日本人にも親しまれてきた著名な散文作品を中心に幾つかを取り上げ、それらを講読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。

講義科目名称：漢文学作品研究（10621）　　授業コード：10621

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択
担当教員			
渡部　東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	＜授業のテーマ＞ 「唐代伝奇」小説の世界 ＜到達目標＞ ・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。 ・現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深めることができる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　「離魂記」 第3回　「離魂記」 第4回　「李徵(人虎伝)」 第5回　「李徵(人虎伝)」 第6回　「李徵(人虎伝)」 第7回　「板橋三娘子伝」 第8回　「定婚店」 第9回　「定婚店」 第10回　「杜子春伝」 第11回　「杜子春伝」 第12回　「杜子春伝」 第13回　「枕中記」 第14回　「枕中記」 第15回　「枕中記」
授業概要	芥川龍之介の「杜子春」や中島敦の「山月記」などの日本の近代文学にも影響を与えた、唐代文人の手に成る短編小説、「唐代伝奇」の中から数篇を取り上げ、講読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。

講義科目名称：漢文学専門ゼミⅠ（10631）　　授業コード：10631

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
渡部　東一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	＜授業のテーマ＞ 　実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培う。 ＜到達目標＞ ・句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文を正確に訓読、解釈できるようになる。 ・問題に対する的確な記述答案が作成できるようになる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第3回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第4回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第5回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第6回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第7回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第8回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第9回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第10回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第11回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第12回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第13回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第14回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第15回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説
授業概要	四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によっては句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では編入学試験の過去問や類題の演習、解答・解説を積み重ねることを通して、実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培っていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回問題演習をしてもらう形で行うので予習は必要ありませんが、授業後は必ず速やかに復習を行い、漢文訓読の基本事項の確認や、記述問題の解き直し等を十分に行ってください。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも、漢文をより読めるようになりたい、記述問題に的確に解答できるようになりたいと思う人がいれば受講を歓迎します。
評価方法	学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。

講義科目名称：漢文学専門ゼミⅡ（10641）　　授業コード：10641

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
渡部　東一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	＜授業のテーマ＞ 　実践的な漢文訓読能力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培う。 ＜到達目標＞ ・句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文でも正確に訓読、解釈できるようになる。 ・問題に対する的確な記述答案が作成できるようになる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第3回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第4回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第5回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第6回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第7回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第8回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第9回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第10回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第11回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第12回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第13回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第14回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説 第15回　編入学試験過去問ないし類題の演習、解答･解説
授業概要	四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によって句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では編入学試験の過去問や類題の演習、解答・解説を積み重ねることを通して、実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培っていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回問題演習をしてもらう形で行うので予習は必要ありませんが、授業後は必ず速やかに復習を行い、漢文訓読の基本事項の確認や、記述問題の解き直し等を十分に行って下さい。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	四年制大学の編入試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも、漢文をより読めるようになりたい、記述問題に的確に解答できるようになりたいと思う人がいれば受講を歓迎します。
評価方法	学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞典も可)を毎回持参して下さい。

講義科目名称：漢文学特講（10650）　　授業コード：10650

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択
担当教員			
渡部　東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	＜授業のテーマ＞ 　中国文学史 ＜到達目標＞ 　先秦から唐代に至る中国文学の歴史を学ぶことを通して、中国文学各ジャンルの特色とその盛衰についての知識を得、併せて日本の文化・文学に与えた影響について知見を深めることができる。
授業計画	第1回　ガイダンス、一、序論 (1)中国文学の特質　(2)〈言志派〉と〈載道派〉・〈達意主義〉と〈修辞主義〉(3)時代区分・日本との関係 第2回　二、先秦時代の文学 (1)神話　(2)詩経　(3)散文の起源と展開「書経」「易経」 第3回　二、秦漢時代の文学 (3)散文の起源と展開「諸子百家の散文」「孔子」「孟子」「韓非子」「老子」「荘子」「春秋左氏伝」「国語」「戦国策」　(4)楚辞 第4回　三、秦漢の散文 (1)秦　(2)漢「史記」「班固」「漢書」「論衡」 第5回　四、漢代の韻文学 (1)騈文の起源　(2)辞賦・楽府・古詩十九首　(3)辞賦 第6回　四、漢代の韻文学 (4)楽府　(5)古詩　(6)古詩十九首 第7回　五、魏晋南北朝の文学 (1)建安の文学「曹操」「曹丕」「曹植」「竹林の七賢」 第8回　五、魏晋南北朝の文学 (2)晋の詩「陶淵明」「謝霊運」 第9回　五、魏晋南北朝の文学 (3)斉・梁の宮廷文学「『文選』」「騈文」「文学評論」「小説」 第10回　六、隋・唐の文学 (1)隋の文学　(2)唐代文学「初唐の詩」 第11回　六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「盛唐の詩」「李白」「絶句について」 第12回　六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「杜甫」「その他の盛唐の詩人」 第13回　六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「中唐の詩文」「韓愈」「柳宗元」 第14回　六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「白居易」 第15回　六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「晩唐の詩人」「小説」「唐の詞と五代の詞」
授業概要	テキストに沿いながら、必要に応じて資料を交え、先秦から唐代に至る中国文学の歴史を概観していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後には必ず授業時のノートやメモを参照しながらテキストを読み直し、理解の定着を図ること。
テキスト	佐藤一郎[著]『中国文学史』(慶應義塾大学出版社)　1,320円(税込価格)　ISBN:978-4766401943　大学内の購買部で購入可能。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国文学に興味関心のある学生は勿論、四年制大学への編入試験で中国文学や文学史に関する知識が必要となる学生の積極的な参加を期待します。
評価方法	学期末のレポート(80%)、授業時の取り組む姿勢(20%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	

講義科目名称：古典文学演習ⅡＡ（10721）　　授業コード：10721

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
佐々木　紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』より派生した『伊吹童子』の内容を読み解き、民間伝承、他の古典・説話を参照しその成立の諸問題を考察します。到達目標は、１、古典文学研究のための辞書、工具の理解。２、室町期散文としての『伊吹童子』読解発表。３、「伊吹童子」成立についての理解。となります。
授業計画	第１回　導入　酒天童子とは何者か？　伊吹童子諸本　大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本 第２回　酒天童子物語との関連 第３回　伊吹童子発表のため諸道具、参考書について 第４回　受講生の発表１ 第５回　受講生の発表２ 第６回　受講生の発表３ 第７回　受講生の発表４ 第８回　受講生の発表５ 第９回　受講生の発表６ 第１０回　受講生の発表７ 第１１回　受講生の発表８ 第１２回　受講生の発表９ 第１３回　受講生の発表１０ 第１４回　受講生の発表１１ 第１５回　『伊吹童子』まとめ
授業概要	酒天童子の前半生を語る『伊吹童子』を通読、宛てられた箇所を各自読解し、『伊吹童子』諸本、中世の物語・民俗信仰との関係等の諸問題を考へる発表をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業では取り上げない『伊吹童子』諸本、『酒天童子』、関連文献（土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等）、関連物語（鈴鹿草子、俵藤太物語等）の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること
テキスト	大英図書館蔵『伊吹童子』
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとつても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してゐる現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。
評価方法	演習の発表（100%）一人１－２回発表です。
参考文献	佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』
備考	

講義科目名称：古典文学演習ⅡＢ（10722）　　授業コード：10722

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
佐々木　紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』の内容を読み解き、その成立の諸問題を考察します。到達目標は、１、渋川本「酒天童子」の読解発表。２、『酒天童子』諸本の相違、成立についての理解。３、『酒天童子』の価値についての理解。となります。
授業計画	第１回　導入　酒天童子とは何者か？　伊吹童子諸本　大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本 第２回　酒天童子諸本について　香取本・サントリー本・中京大本・呆犬斎本 第３回　酒天童子関連物語・伝説の展開 第４回　酒天童子発表のため諸道具、発表の形式について 第５回　受講生の発表１ 第６回　受講生の発表２ 第７回　受講生の発表３ 第８回　受講生の発表４ 第９回　受講生の発表５ 第１０回　受講生の発表６ 第１１回　受講生の発表７ 第１２回　受講生の発表８ 第１３回　受講生の発表９ 第１４回　受講生の発表１０ 第１５回　総論―酒天童子とは何者か
授業概要	酒色に耽溺する酒天童子を退治する源頼光一行の冒険を通読、宛てられた箇所を各自読解し、中世の物語・民俗信仰との関係から、成立等の諸問題を考へる発表をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	香取本、サントリー本、中京大本の精読対照、関連文献（『伊吹童子』、土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等）、関連物語（鈴鹿草子、俵藤太物語等）の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること
テキスト	渋川版『酒天童子』
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとつても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してゐる現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。 呆犬齋文庫蔵の各種『酒天童子』絵巻・資料をお見せいたしませう。
評価方法	演習の発表（100%）一人１－２回発表です。
参考文献	佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』
備考	

講義科目名称：近現代文学演習ＩＡ（10731）　　授業コード：10731

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
千葉　正昭			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1、前期三部作『三四郎』『それから』『門』の連続性を理解することができる。2、『それから』の主人公代助の想念の輪郭を理解することができる。3、代助は、社会一般をどのように捉えているのか本文を丁寧に読んで理解することができる。
授業計画	第1回　夏目漱石の伝記 第2回　漱石とその時代 第3回　漱石研究の概説 第4回　『三四郎』『それから』『門』三部作の中の『それから』 第5回　一章 第6回　二章 第7回　三章 第8回　四章 第9回　五章 第10回　六章／その１ 第11回　六章／その2 第12回　七章／その１ 第13回　七章／その2 第14回　これまでの統括 第15回　問題点の検討
授業概要	漱石『それから』前半部を、分担を決めて読んでいく。発表、質疑応答、意見開陳など、なるべく多くの人たちが語り参加することを目指す。読み深めていくことの面白味を理解出来れば有難い。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習は、該当箇所を読みノートに問題点を書くこと90分。復習は、教室で指示された文献を図書館や国語・国文共同研究室で調べ確認することを90分。
テキスト	購買部で販売／新潮文庫『それから』夏目漱石著　460円＋税　ISBN978－4－10－101005－2
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	近代文学の代表のひとり夏目漱石を、ゆっくり読んでみましょう。作品をじっくり読んでいくことが、結構面白味を提供してくれます。報告者に任せるだけではなく、自分も予習して読んで疑問点をたずねてみようという気持ちで取り組んでみましょう。短大のいい思い出になりますよ。
評価方法	質疑応答20％、レポート80％。
参考文献	教室で印刷物配布、板書列挙。
備考	

講義科目名称：近現代文学演習ＩＢ（10732）　　授業コード：10732

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
千葉　正昭			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1、代助の考える「現代人の踏むべき必然の運命」を、理解することができる。2、生活欲と無縁の代助が、平岡と父という生活の側面に迫られることがどのような意味をもつのか理解することができる。3、代助の内実を理解するのに、「信仰」「生活の堕落」などはどのような意味を持つのか検討できる。
授業計画	第1回　漱石研究紹介 第2回　八章 第3回　九章 第4回　十章 第5回　十一章 第6回　十二章 第7回　十三章／その1 第8回　十三章／その2 第9回　十四章 第10回　十五章 第11回　十六章／その1 第12回　十六章／その2 第13回　十七章 第14回　総括 第15回　森田芳光監督『それから』と議論
授業概要	前期の授業をもとに引き続き、報告・質疑応答を重ねる。無職で暮らす男の苦悩とは、如何なるものであったのか。ゆっくりと読むことで理解を深めていきたい。作品や作家の特徴などが、長期間の検討で分かってくるものがあります。様式の面白さを、味わってみましょう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習に90分をかけ問題点をノートに書き留める。復習では教室で指示された参考文献を、図書館や国語・国文共同研究室で調べて確認する作業を90分ほどする。
テキスト	前期と同じものを、引き続き使用する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	かつて日本近代文学研究の碩学吉田精一は、鴎外は整理する人・漱石は愛をつくった人と評しました。本当にそうかどうか、ゆっくりと少しずつ考えてみましょう。それまで見えてこなかったことが、輪郭だけでも浮かんでくるとしめたものです。
評価方法	質疑応答20%、レポート80%。
参考文献	授業で印刷物を配布、板書で列挙。
備考	

講義科目名称：近現代文学演習ⅡＡ（10742）　　授業コード：10742

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
今井　瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で文学研究の方法を学びます。授業の後半では、卒業研究に向けて各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学研究の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるよう伝える。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　文学研究の方法を学ぶ①：調べ方を調べる 第３回　文学研究の方法を学ぶ②：作者と語り手 第４回　文学研究の方法を学ぶ③：語り・叙法 第５回　文学研究の方法を学ぶ④：語り・叙法 第６回　文学研究の方法を学ぶ⑤：身体と空間 第７回　文学研究の方法を学ぶ⑥：ジェンダー 第８回　文学研究の方法を学ぶ⑦：アダプテーション 第９回　文学研究の方法を学ぶ⑧：アダプテーション 第10回　文学研究の方法を学ぶ⑨：論文を読んでみよう 第11回　文学研究の方法を学ぶ⑩：論文を読んでみよう 第12回　卒業研究発表① 第13回　卒業研究発表② 第14回　卒業研究発表③ 第15回　卒業研究発表④
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の周りにあるメディアに意識を向けるようにしてください。小説を読む力は、自分の周りの世界を読む力でもあります。 作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに関心を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（50%）及び議論への貢献度（50%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学演習ⅡＢ（10743）　　授業コード：10743

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
今井　瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究として各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学・アニメ等の精読を通して、作品分析の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるよう伝える。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　論文の書き方を学ぶ 第３回　卒業研究構想発表会① 第４回　卒業研究構想発表会② 第５回　卒業研究構想発表会③ 第６回　卒業研究構想発表会④ 第７回　文献購読：受講者の関心に合わせて選定 第８回　卒業研究中間報告① 第９回　卒業研究中間報告② 第10回　卒業研究中間報告③ 第11回　卒業研究中間報告④ 第12回　卒業研究相談会 第13回　卒業研究相談会 第14回　卒業研究プレゼン 第15回　卒業研究プレゼン
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに関心を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（50%）及び議論への貢献度（50%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：国語学演習ＩＡ(10751)　　授業コード：10751

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
山本　淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近世に流布したテキスト『源氏物語評釈』を採り上げ、往時の人々がどのように古典に向かったか、その跡を辿って読むことをテーマとします。この授業を通じて、 ① 近世の板本が読めるようになる ② 古注釈書の様式に馴れて書かれてある大要が理解できる ③ 解りにくいところを受講生どうし互いに意見交換できる という最終目標を達成することになります。
授業計画	初講　導入　演習の進め方 2講　近世国学者と萩原広道 3講　萩原広道の業績 『源氏物語評釈』の体裁と内容 4講　『源氏物語』を読む前に 『源氏物語』の諸注釈 5講　若紫の段を読む①（北山への来訪） 6講　若紫の段を読む②（小柴垣の垣間見） 7講　若紫の段を読む③（僧都への持ちかけ） 8講　若紫の段を読む④（尼君への消息） 9講　若紫の段を読む⑤（源氏と僧都との対座） 10講　若紫の段を読む⑥（源氏と正室葵上とのこと） 11講　若紫の段を読む⑦（源氏と藤壺宮） 12講　若紫の段を読む⑧（紫姫君への思い） 13講　若紫の段を読⑨（尼君逝去） 14講　若紫の段を読む⑩（二条院へ） 15講　まとめ
授業概要	近世後期、国学者として活躍した萩原広道『源氏物語評釈』の若紫の段を採り上げて、原典で読む。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	板本で読めるように、解読の練習が必要です 授業前に必ず予習（予定範囲の原文に目を通しておくこと）しておいてください 授業後は、要点を捉えて読み返しをしてください
テキスト	板本を印刷します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まずは原典に馴れることを当面の目標として進めます 連綿体に馴れたら、それぞれで読み進めてゆきましょう（輪読形式を予定しています）
評価方法	輪読の成果で評価します（100%）。評価基準として 担当範囲全体を隅々まで目配りでき、明朗な朗読に明快な解説ができる[S]、担当範囲全体からポイントを押さえて、明朗な朗読に明快な解説ができる[A]、担当範囲全体からポイントは押さえているが、朗読や解説にやや明快さを欠く[B]、担当範囲内に不正確な理解が混在し、朗読や解説に明快さを欠く[C]、担当範囲の読みが誤っており、朗読や解説が拙い[D] に照らして、相対的に評価します。
参考文献	源氏物語についての現在の注釈書を座右に置いて対照させると解りやすいでしょう たとえば　『新編日本古典文学全集　源氏物語①』（小学館）　など

講義科目名称：国語学演習ＩＢ(10752)　　授業コード：10752

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
山本　淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近世書き言葉標準体と話し言葉との交渉の様相を観察することがテーマです。 この授業により、次のことが受講生の身につくところとなります。 ①古典文学の近世語訳の文章体について文体に馴れる ②近世版本の様式に馴れ、連綿体の文章が読めるようになる ③古典語と近代語との違いに注意して意味を掴むことができる
授業計画	第１回　国学者の古典研究 第２回　本居宣長・鈴木朗・栗田直政の系譜について 第３回　『古今集遠鏡』との共通点・相違点 第４回　『源氏遠鏡』について 第５回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読①） 源氏転地療養する 第６回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読②） 明石入道とその娘の話を耳にする 第７回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読③） 尼君と僧都との遣り取り 第８回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読④） 源氏僧都の坊を来訪する 第９回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑤） 尼君へ消息を遣わす 第１０回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑥） 源氏と僧都と和歌の応酬 第１１回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑦） 源氏帰還、北山の人々に消息を出す 第１２回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑧） 藤壺宮懐妊のこと 第１３回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑨） 尼君を弔う 第１４回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑩） 源氏、兵部卿宮の意中を知る 第１５回　『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑪） 源氏、紫姫君を連れて出る
授業概要	尾張国の国学者栗田直政が訳した『源氏遠鏡』を雅俗対照させて読みます 古典語・古典文法について復習し、近代語法について新たに学習します
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	影印資料に馴れるということを当面の目標として、授業前に読みの練習をしてください また、授業後はしっかり概要を押さえながら読めるように、反復練習してください
テキスト	影印資料を印刷して渡します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	馴れさえすれば読むのはそれほど難しくはありませんので、根気強く読む練習をしてください
評価方法	授業への参加度(50%)と課題レポートの成果(50%)との総合的評価。基本的な評価基準として、【参加度(発表者の場合)】発表内容を熟知し不明点を積極的に求めようとする態度が窺える[S]、発表内容を熟知し、不明点が明確に判る[A]、発表内容が概ね理解できてまとめられる[B]、発表内容が概ね理解されているが、説明が足りない[C]、発表内容が不明確で説明もできない[D]【参加度（聴講者の場合）】発表者説明をよく理解し建設的な意見を述べることができる[S]、発表者説明をよく理解し不明点を指摘できる[A]、発表者説明を概ね理解し賛意・不賛意が表明できる[B]、発表者説明は概ね理解できるが自身の考えは表明できない[C]、発表者説明が理解できず発言や質問もできない[D]、【レポートの成果】問題の所在を理解し解法を正しく述べ明快な解答が導き出せている[S]、問題の所在を理解し解法が概ね正しく明快な解答が導き出せている[]]、問題の所在は理解しているが解法に不備な点があり解答にやや明快さを欠く][B]、問題点・解法に誤りがあり結論に精細さが無い[C]、問題点・解法が示されず結論が出せていない[D]、として総合評価します。

参考文献	野村剛史『日本語スタンダードの歴史』（岩波書店） 杉本つとむ『東京語の歴史』（講談社学術文庫）
備考	

講義科目名称：国語学演習ⅡＡ(10761)　　授業コード：10761

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
小峰　克之			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業は、初級文法の指導とその留意点を学ぶことを目的としている。 到達目標1　初級の文法事項を、優先順位を考えながら体系的に列挙できる。 2　各文法事項を学習者が理解できるように説明できる。 3　中級の内容を見据えたうえで初級者に対して指導ができる。
授業計画	第１回　　導入　日本語教育とは何か 第２回　　教える際の優先順位 第３回　　名詞文と指示語 第４回　　動詞を教授する際の留意点 第５回　　動詞と助詞 第６回　　「て形」の導入 第７回　　形容詞の導入 第８回　　「て形」と補助動詞 第９回　　様々な活用と連体修飾 第１０回　　名詞化の力 第１１回　　助詞「は」と「が」 第１２回　　条件 第１３回　　使役・受身・使役受身 第１４回　　助詞相当語 第１５回　　まとめ
授業概要	日本語教育で扱う文法事項やその理論は、私たちが中学高校で習ったものとはかなり異なっている。従って、まずは日本語教育の初級で扱う文法事項を知ることが大事である。ただし、それらには指導する際の留意点や問題点も多々ある。そこで、授業ではそれらの点について意見交換や議論などを行いながら、よりよい教授のあり方を模索していく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次の授業内容に予め目を通しておき、課題が与えられている場合は次の授業までにやっておく。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本語教育の文法理論には、私たちが中学高校で習ったものとは異なる部分が多々あるために初めは戸惑うかもしれませんが、授業をしっかり受けていれば慣れてくると思いますので、その点は心配せずに受講してください。
評価方法	ワークシートや課題など授業での提出物（80%）、授業での質疑応答や発言など（20%）で評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：国語学演習ⅡＢ(10762)　　授業コード：10762

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
小峰　克之			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業は初級者への指導をテーマとした「日本語教育論演習A」の内容を前提としたもので、中上級者に対する指導力を養成することを目的としている。 到達目標1　レポート指導も含めたライティングの指導ができるようになる。 2　プレゼンテーションの指導ができるようになる。 3　種々の待遇表現を理解し、その指導ができるようになる。
授業計画	第１回　導入　中上級クラスの特徴 第２回　接続表現１　因果関係と順接・逆接 第３回　接続表現２　添加・その他の接続表現 第４回　ライティング指導1　書式と形式 第５回　ライティング指導2　アウトラインとブレインストーミング 第６回　ライティング指導3　注意すべき誤用や誤記 第７回　ライティング指導4　ピア・レスポンスと修正方法 第８回　ライティング指導5　自己評価と他者評価 第９回　プレゼンテーション指導１　プレゼンテーションの方法の理解 第１０回　プレゼンテーション指導２　プレゼンテーションの実演 第１１回　プレゼンテーション指導３　実演とその評価法 第１２回　待遇表現１　待遇表現の基本・敬語と授受表現 第１３回　待遇表現2　許可求めと要求・それらの対応 第１４回　待遇表現3　依頼表現と交渉 第１５回　まとめ
授業概要	この授業は演習であるため、配布された資料を読んだり考えたりする以外に、実際にプレゼンテーションをしたり、小レポートを作成したりする。また、ペアやグループでの活動もあり、そのような実演を通して指導上の注意点を考える。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	事前に配布された資料を読んでくること。また、ライティング指導やプレゼンテーション指導では授業までに指示された作業を終えておくこと。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。

受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業は「日本語教育論演習A」を履修したことを前提としています。実演を通した作業が比較的に多い授業ですが、自分で実際にやってみないと気づけないことは多々ありますので、そのような気持ちで授業に取り組んでほしいと思います。
評価方法	授業で課すレポート（40%）、発表（30%）、その他の提出物や授業での発言（30%）で評価する。
参考文献	授業で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：図書館文化論演習Ａ（10782）　　授業コード：10782

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
大沼　太兵衛			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	図書館情報学の様々な現代のトピックについて、演習形式で探究する。到達目標は次の2点である。 (1)図書館をめぐる動きや現代的な課題を知ること (2)基本的な発表のスキルやディスカッションの技法を身につけること
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　レジュメの作成方法、発表の方法等について 第3回　個人またはグループによる発表(1) 第4回　個人またはグループによる発表(2) 第5回　個人またはグループによる発表(3) 第6回　個人またはグループによる発表(4) 第7回　個人またはグループによる発表(5) 第8回　個人またはグループによる発表(6) 第9回　個人またはグループによる発表(7) 第10回　個人またはグループによる発表(8) 第11回　個人またはグループによる発表(9) 第12回　個人またはグループによる発表(10) 第13回　個人またはグループによる発表(11) 第14回　ディスカッション 第15回　全体のまとめ
授業概要	各回、担当者による発表と、それを踏まえたディスカッションによって行う。受講人数等によって、授業計画は若干変更される可能性がある。 履修にあたってのガイドをクラウド上に用意するので、活用すること（初回の授業で説明する）。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予・復習それぞれ1時間程度。発表の担当回についてはそれ以上の時間をかけて準備すること。
テキスト	国立国会図書館「カレントアウェアネス・ポータル」（ https://current.ndl.go.jp/ ）収録の記事を主たる題材とする。詳細は授業で指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	発表やディスカッションへの積極的な参加を高く評価します。
評価方法	発表（40%）、授業への参加度（30%）、期末レポート（30%）
参考文献	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ（第3版）：大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2020年（ISBN：978-4-7664-2656-4） 河野哲也著『レポート・論文の書き方入門　第4版』慶應義塾大学出版会、2018年（ISBN：978-4-7664-2527-7）
備考	

講義科目名称：図書館文化論演習Ｂ（10783）　　授業コード：10783

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
大沼　太兵衛			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「図書館文化論演習A」の発展形として、図書館情報学の論文を読み、演習形式で発表を行う。到達目標は次の2点である。 (1)学術論文の読解、要点の理解とまとめができるようになること (2)それを的確に発表で伝えられるようになること
授業計画	第1回　ガイダンス、図書館情報学分野の学術論文の調べ方 第2回　学術論文の読み方 第3回　個人またはグループによる発表(1) 第4回　個人またはグループによる発表(2) 第5回　個人またはグループによる発表(3) 第6回　個人またはグループによる発表(4) 第7回　個人またはグループによる発表(5) 第8回　個人またはグループによる発表(6) 第9回　個人またはグループによる発表(7) 第10回　個人またはグループによる発表(8) 第11回　個人またはグループによる発表(9) 第12回　個人またはグループによる発表(10) 第13回　個人またはグループによる発表(11) 第14回　ディスカッション 第15回　全体のまとめ
授業概要	各回、担当者による発表と、それを踏まえたディスカッションによって行う。受講人数等によって、授業計画は若干変更される可能性がある。 履修にあたってのガイドをクラウド上に用意するので、活用すること（初回の授業で説明する）。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：各回の指定論文の予習には必要な時間をかけ、あらかじめ内容を理解しておくこと。 復習：1時間程度。
テキスト	各自の担当論文は全てウェブで公開されているもののみとする。詳細は授業で指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	発表やディスカッションへの積極的な参加を高く評価します。
評価方法	発表（40%）、授業への参加度（30%）、期末レポート（30%）
参考文献	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ（第3版）：大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2020年（ISBN：978-4-7664-2656-4） 河野哲也著『レポート・論文の書き方入門　第4版』慶應義塾大学出版会、2018年（ISBN：978-4-7664-2527-7）

講義科目名称：教育文化論演習Ａ（10791）　　授業コード：10791

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
村瀬　桃子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	教育をはじめとした文化に関して、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題や社会問題を考察できるようにする。
授業計画	第1回　オリエンテーション 前期のゼミの流れを確認する。 第2回　発表資料の書き方・発表の仕方 演習でのゼミの発表資料の書き方や発表の仕方などを確認する。 第3回　レポート・論文の書き方 短大を卒業する前に、レポートや論文の書き方の最低限のルールを知る（特に卒論・編入希望者は確実に）。 第4回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第5回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第6回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第7回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第8回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第9回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第10回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第11回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第12回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第13回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第14回　文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。 第15回　卒業論文構想発表 卒業論文の執筆を予定している者の構想を発表する。
授業概要	前期は、教育・文化に関する基本事項をおさえるため、全員で文献を読み解いていく（卒業研究を予定している者はその検討を行う）。発表は、基本的に個人で行う予定である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育を中心とした社会問題について関心を持つようにする。
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）
参考文献	その都度紹介する。
備考	

講義科目名称：教育文化論演習Ｂ（10792）　　授業コード：10792

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
村瀬　桃子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	教育に関して、まず基本事項をおさえた上で、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題を考察できるようにしたい。
授業計画	第1回　オリエンテーション 後期の予定を確認する。 第2回　卒論構想発表① 卒業研究の構想について発表する（希望者）。 第3回　卒論構想発表② 卒業研究の構想について発表する（希望者）。 第4回　個人研究発表① 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第5回　個人研究発表② 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第6回　個人研究発表③ 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第7回　個人研究発表④ 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第8回　個人研究発表⑤ 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第9回　個人研究発表⑥ 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第10回　卒論中間発表① 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。 第11回　卒論中間発表② 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。 第12回　個人研究発表⑦ 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第13回　個人研究発表⑧ 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第14回　個人研究発表⑨ 個人研究の発表を行う（卒業研究を希望しない者が中心となる）。 第15回　まとめ 1年間のゼミのまとめを行う。
授業概要	後期は、それぞれの興味関心に添った文献等を読み進めていく予定である（卒業研究を取る者は卒業研究の検討を行う）。発表は、基本的に個人で行う予定である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育・文化を中心とした社会問題について関心を持つようにする。
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）
参考文献	その都度紹介する。
備考	

講義科目名称：書道（10800）　　授業コード：10801　10802

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２	４	選択・教職必修（教科：国語）
担当教員			
我彦　芳柳			
開放(教養)			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	１．楷書・行書・草書・隷書・仮名の代表的な古典を臨書し、学内展示作品を作成 ２．篆書を学び雅印作成 ３．国語科の書写指導に必要な実技 ４．現代の書・生活の書・実用書の作成
授業計画	第1回　用具・用材について 第2回　楷書の基本用筆確認 第3回　書写から書道入門 第4回　漢字の変遷と書体・楷書の成立 第5回　唐の四大家を学ぶ（１）孔子廟堂碑 第6回　唐の四大家を学ぶ（２）九成宮醴泉銘 第7回　唐の四大家を学ぶ（３）雁塔聖教序 第8回　唐の四大家を学ぶ（４）顔氏家廟碑 第9回　北魏の書を学ぶ（１）牛けつ造像記 第10回　北魏の書を学ぶ（２）鄭羲下碑 第11回　楷書の小階　隅寺心教 第12回　楷書の小階　隅寺心教 第13回　行書の特徴を学ぶ 第14回　行書の古典を学ぶ（１）蘭亭序 第15回　行書の古典を学ぶ（２）争坐位文稿 第16回　篆書を学ぶ　泰山刻石 第17回　日本の書三筆三跡を学ぶ 第18回　仮名の用筆法を学ぶ 第19回　平仮名と変体仮名を学ぶ 第20回　平仮名と変体仮名の単体・連綿を学ぶ 第21回　仮名の古典を学ぶ（１）高野切第三種 第22回　仮名の古典を学ぶ（２）高野切第一種 第23回　仮名の古典を学ぶ（３）寸松庵色紙 第24回　学内展示作品仕上げ

	第25回　　草書を学ぶ　真草千字文 第26回　　隷書を学ぶ 第27回　　漢字仮名交じりの書を学ぶ 第28回　　学内展示作品の鑑賞 第29回　　手紙文・実用書を学ぶ 第30回　　書道史年表中心にまとめ
授業概要	漢字・仮名の変遷成立の理解を深め、基礎的実技能力を養う。
実務経験及び授業の内容	書道教室での実務経験及び小中高の書道展での審査経験を生かし、作品制作の指導を行う。
時間外学習	休日等を利用し、美術館・博物館・展覧会等の鑑賞に行くこと。
テキスト	必要に応じてプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	１．実技を中心とする積み上げ学習なので、講義を欠席しないこと。 ２．学内展示作品（修了作品）作成に費用2,400円位必要です。
評価方法	１．作品の評価 ２．授業の参加度 ３．学内展示作品の作成
参考文献	古典法帖
備考	①書道道具(既存の物で可)を1回目から持参下さい。 ②用具・用材はさわらび利用

講義科目名称：伝統文化論（10910）　　授業コード：10910

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
石黒　志保			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本の伝統はどのように生じ、形成されてきたのか、を考えます。今、自身の身近にある文化や考え方と似通っているのか、つながっているのか。いろいろな時代の資料を読みながら、一緒に考えていきましょう。
授業計画	第１回　ガイダンス「伝統について」 第２回　川端康成『美しい日本の私』を読む 第３回　『古今和歌集』を読む 第４回　『新古今和歌集』を読む 第５回　藤原俊成『古来風躰抄』を読む 第６回　慈円『愚管抄』を読む①ー言葉について 第７回　慈円『愚管抄』を読む②ー道理について 第８回　西行『山家集』を読む 第９回　芭蕉『おくのほそ道』を読む 第１０回　世阿弥『風姿花伝』を読む 第１１回　能のDVD鑑賞 第１２回　「もののあはれ」とは①ー本居宣長『石上私淑言』を読む 第１３回　「もののあはれ」とは②ー本居宣長『紫文要領』を読む 第１４回　柳宗悦『美の法門』を読む 第１５回　まとめ
授業概要	毎週、違う資料を読み、日本の伝統とは何か、を通史的に考えます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布プリントを復習的に読み、授業で取り上げたテキストを熟考して下さい。
テキスト	プリント配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「授業のテーマ」にもあげましたが、資料のひとつひとつを読み解きながら、自身の身近にそのような文化や思想があるのか、自分はどのように考えるのか、を大事にしてもらいたいと思います。
評価方法	コメントシート（80%）と授業の参加度（20%）で評価します。 初回授業日に注意点をまとめたプリントを配布します。授業を履修する方は、必ず受け取り、内容を確認して下さい。その内容を理解したものとし、授業を進めます。
参考文献	適宜、紹介します。
備考	

講義科目名称：有職故実（10920）　　授業コード：10920

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	１・２	２	選択
担当教員			
田中　潤			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	有職故実とは、前近代の公家・武家社会において、政治・制度・儀式・法令・慣習など多様な分野におよぶ知識・先例と、それを研究する学問とされる。いわば、前近代の人々の衣食住の総体を規定してきた要素を学ぶものである。古代から伝えられてきた歴史資料や古典籍、あるいは博物館・美術館などに収蔵される美術品が生み出され、実際に用いられてきた様子を知る上で、有職故実の知識は不可欠である。この講義では、多方面にわたる有職故実の分野の中でも、公家・女房装束を中心に紹介し、実際の着装を通じて理解を深めることを目標とする。
授業計画	第1回　オリエンテーション（有職故実とはなにか） 第2回　令和に伝えられた公家服飾（令和の即位礼の装束） 第3回　近代の即位の礼と装束の変化 第4回　日本古代服飾史①（飛鳥・白鳳時代） 第5回　日本古代服飾史②（奈良時代・正倉院宝物にみる服飾） 第6回　日本古代服飾史③（平安時代①：彫刻資料にみる服飾） 第7回　日本古代服飾史④（平安時代②：文献資料にみる服飾） 第8回　日本古代服飾史⑤（平安時代③：絵画資料に見る服飾） 第9回　日本古代服飾史⑥（平安時代④：かさねの色目） 第10回　日本古代服飾史⑦（平安時代⑤：有職織物） 第11回　日本古代服飾史⑧（平安時代⑥：有職文様） 第12回　日本古代服飾史⑨（装束の変遷と衣紋道） 第13回　着装体験と装束雛形の作成① 第14回　着装体験と装束雛形の作成② 第15回　まとめ
授業概要	配布資料とパワーポイントなどを用い、映像資料、着装などを踏まえながら理解を深める。
実務経験及び授業の内容	装束の着装指導や有職故実関係資料の整理で得た実務経験を踏まえて指導を行う。
時間外学習	日本古代の歴史の流れ確認し、「伝統的な」日本の衣装に目を留めよく観察すること。
テキスト	プリントを配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	着装や、個人・グループでも作業を行うので、積極的な参加を希望します。
評価方法	試験
参考文献	鈴木敬三『有識故実図典』吉川弘文館　1995
備考	

講義科目名称：民俗学概説(国)（10930）　　授業コード：10930

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
阿部　宇洋			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業は、日本民俗学の概要を広く学ぶこと主題とします。また、共同で学びを深めることによって、様々な興味関心をもち、広い視野で歴史、現代を見つめる力を身につけることを願います。 到達目標 １、日本民俗学の分野に関して理解する。 ２、身近な現象を民俗学の視野で観察することが出来る。 ３、日本人は目に見えない世界をどのように理解しようとしたのかを、理解することが出来る。
授業計画	第1回　オリエンテーション、民俗学の基礎知識 第2回　調査ノート（フィールドノート）、メモ、記録に関して 第3回　民俗学の系譜１（柳田国男、折口信夫、南方熊楠など） 第4回　民俗学の系譜２（渋沢敬三、宮本常一、柳宗悦など） 第5回　地獄、極楽、供養、民衆の中のあの世 第6回　怪異とのつきあい方 第7回　やまがたを知る（グループワーク１・グループ作成と課題設定） 第8回　やまがたの郷土食を探る（グループワーク２・課題探求） 第9回　米沢の刺し子　１　十字刺し 第10回　米沢の刺し子　２　くぐり刺し 第11回　民具の基礎知識、道具から見える世界 第12回　民俗芸能の基礎知識 第13回　口承伝承　昔話、伝説の基礎知識 第14回　発表・報告 第15回　まとめ
授業概要	講義を中心に、実施します。第７回目からグループを作成して共同作業を実施してもらう予定です。第９回、第10回には米沢の原方刺し子を実践してもらう予定です。評価方法、評価の内容に関しては第１回目に詳しく説明します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	土日祝日を利用して、さまざまな博物館・美術館・資料館を見学しに行くこと。また、授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	民俗学は「あるく、みる、きく」が基礎とされますが、皆さんにはその３つに加え、みずから「考える」ことをしていただきたいと思います。社会の中に取り込まれている、隠れている民俗事象を発見できるような、視点を身に付けて欲しいと思います。 また、知らない人とコミュニケーションする練習の場にもなります。この講義では失敗を恐れないでください。コミュニケーションが苦手な人は授業時に相談してください。
評価方法	授業への参加度　15% 中間レポート　35% 発表・報告　45%
参考文献	『日本民俗学概論』（1983）、『米沢市伝統技術「原方刺し子」の詳細記録の作成と図案の研究』（2020）、他、詳しくは講義資料で紹介します。

備考	刺し子の体験を実施します。自分で刺し子のコースターを作成して頂きます。その際に、材料費が1,500円かかります。教員とのやり取りに関しては、授業内で提示します。

講義科目名称：山形の郷土資料と文学（10951）　　授業コード：10951

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
千葉　正昭			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	山形の土壌が生んだ作家・作品を、その生涯及びテーマを絡めて検討していく。その過程で作品様式の独自性を理解していく。出来ればこの作品様式の中に、自然、風土、歴史が潜んでいることを理解できるようになれば有難いと考えている。
授業計画	第1回　山形文学の豊饒さ 第2回　樋口一葉を世に出した大橋乙羽 第3回　一葉に対決姿勢を燃やした田沢稲舟 第4回　斎藤茂吉の晩年とその恋人と 第5回　童話作家浜田広助は偏屈男？ 第6回　真壁仁と「黒川能」とエロチシズム 第7回　森敦「月山」とは？ 第8回　無着成恭「山びこ学校」と安本末子「にあんちゃん」 第9回　小林多喜二の小樽高商教師が米沢出身者？ 第10回　丸谷才一「笹まくら」の徴兵拒否 第11回　藤沢周平の桃源郷は？ 第12回　井上ひさし米沢舞台の小説は奇想天外 第13回　森万紀子と葛西善蔵 第14回　安部公房「砂の女」と庄内砂丘 第15回　安部公房「砂の女」その2／レポート提出
授業概要	各々の作家・作品を初回の授業で解説。該当する作品は、前週に印刷したものを配布する。こんな興味深い作家がいたのかという発見があれば、嬉しい。図書館にない資料でもお貸しすることを考えている。受講学生とのやり取りで意欲が出ることを望んでいる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	１翌週の授業内容を指定するので、問題点を考えておくこと。 ２授業を踏まえて、テーマをもう一度ノートに整理しておくこと。 ３授業に関わりのあった別の作品等を調べておくこと。
テキスト	印刷物を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	山形県出身者にこれほどの人がいたのかという驚きがあれば有難い。風土の特殊性は、結構興味深いものと理解されるのではないか。授業終了後に希望者たちと文学散歩が出来れば嬉しいと考えている。
評価方法	質疑応答20%、レポート80%。
参考文献	その都度教室で指示する。
備考	第一回目の授業が結構重要である。

講義科目名称：現代文化論（10952）　　授業コード：10952

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	１・２	２	選択	
担当教員				
今井　瞳良				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	あるメディアから他のメディアへ移植される「アダプテーション」という現象から、現代文化を歴史的に読みときます。到達目標は以下の二つです。①アダプテーションの見方を理解する。②現代文化を歴史的な視点から相対的に捉える力をつける。
授業計画	第１回　ガイダンス：アダプテーションとは何か 第２回　映像史概説 第３回　『ちはやふる 上の句』（2016年）を見る 第４回　漫画『ちはやふる』から青春映画『ちはやふる』へ 第５回　ライトノベルからアニメへ：『涼宮ハルヒの憂鬱』 第６回　『君の名は』から『君の名は。』へ 第７回　『ゴジラ』から『シン・ゴジラ』へ 第８回　映画『伊豆の踊子』（1963年）を見る 第９回　『伊豆の踊子』から『伊豆の踊子』から『伊豆の踊子』へ、そして『伊豆の踊子』へ 第10回　「文豪」から「聖地巡礼」へ：『文豪ストレイドッグス』と『文豪とアルケミスト』 第11回　『戦慄怪奇ファイルコワすぎ！ FILE04 真相！トイレの花子さん』（2012年）を見る ※ホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。 第12回　怪談からJホラーへ：「実話性」と赤い服の女 ※ホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。 第13回　「東京オリンピック」から「東京2020オリンピック」へ：その背景 第14回　「東京オリンピック」から「東京2020オリンピック」へ：映像と観客 第15回　まとめ
授業概要	アダプテーションという現象を考えることで、現代文化をただ「新しい」ものと見るのではなく、歴史の中に位置付けてみたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で扱う作品は可能な範囲で目を通してください。
テキスト	資料をダウンロードできるようにします。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	興味のある作品を今までとは異なる視点から考える機会にしましょう。担当教員が振り返りシートを２～３回ほど確認し、応答する時間を取ります。積極的に意見を発信してください。
評価方法	振り返りシート（30%）、レポート（70%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	第11回、第12回にホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。

講義科目名称：東洋思想（10960）　　授業コード：10960

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
小野　卓也			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本は昔から、インドや中国の文化（言語と論理、宗教と死生観、恋愛観や家族観など）を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。 この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。当然と思っていたことの背景にある未知の歴史や、それが当然ではない世界との比較から見えてくるものは何か、一緒に考えていきましょう。
授業計画	第1回　日本語の中のインドの言葉 音写と意訳のメリットとデメリット。梵文を書いてみよう 第2回　七福神の成立 インド・中国・日本の神様の違い。人は神仏に何を求めるのか 第3回　カレーライスの歴史 インドから日本への経路。外国文化の伝播と日本国内の広がり 第4回　無常について いろは歌と「もののあはれ」。ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方 第5回　苦と解脱 四苦八苦から涅槃へ。悩み苦しみを乗り越えて幸せになる方法 第6回　善悪の基準 十悪業と四摂法。偽善とお節介のはざまで 第7回　自己とは何か コロナ禍で見失ってしまった自分を再構築するために 第8回　業と来世 輪廻と黄泉の国について。人は死んだらどうなるのか 第9回　世界の始まりと終わり 世界は単一か多元か。存在論と認識論をめぐって 第10回　先祖と神仏 餓鬼と御霊信仰。死者はどのように扱われるか 第11回　愛と慈悲 ラブスタイル類型論から分析する愛欲と慈悲と仁 第12回　心とは何か 心を整える心理学と唯識。身体の外に広がる心 第13回　身分と差別 カースト制度を擁護した人たち。差別はなぜなくならないのか 第14回　議論と論理 友好的な議論と敵対的な議論。対立を乗り越える話し合い 第15回　仏教と女性 比丘尼教団の成立と今。男女平等はいかにして達成されるか
授業概要	毎回テーマに沿って、インド・中国・日本、あるいはバラモン教・ヒンドゥー教・儒教・道教・仏教における考え方の違いを比較していきます。授業の最後に簡単な課題を出し、次回提出してもらいます。
実務経験及び授業の内容	講師はインド留学経験があり、そこでの見聞も授業中に適宜紹介していきたいと思います。また禅宗寺院の住職、人権擁護委員、保護司、家庭教育アドバイザー、県男女共同参画推進員なども務めており、その実務経験に基づいた現代の問題にも触れます。
時間外学習	授業の最後に出す課題は、自身の経験に照らして考えてきてもらう内容です。授業内容をもとに、自分の見方や考え方を整理してきてください。
テキスト	プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	聞いてなるほどと思うだけでなく、それが自分の考え方にどのように関係してくるのかを考えてもらえるよう心がけて進めていきたいと思います。

評価方法	毎回提出された課題を出席点とします。そのほかにレポートが2回あり、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。試験は行いません。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
備考	

講義科目名称：現代社会と教育問題（10970）　　授業コード：10970

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	１・２	２	選択	
担当教員				
村瀬　桃子				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	１．現代における子ども・若者の問題や、教育問題について知る。 ２．２回の発表を通して、各自の興味のある問題について深く考え、自分の意見を伝える。
授業計画	第1回　オリエンテーション この講義の内容や進め方、評価の仕方等について説明する。 第2回　貧困問題と教育 「相対的貧困」をキーワードに、子どもの貧困問題について、現実を知り、どのような対策が必要か考える。 第3回　奨学金の問題 主に大学生の奨学金の問題について、当事者として現状を知り、将来の奨学金制度をどうしていくべきか考える。 第4回　若者の進路の問題 若者、特に若い女性の問題のひとつとして、「生理の貧困」について知る。 第5回　障がいをもつ子どもたちの就労問題 障がいを持つ子どもの就労問題について、現実と課題を知る。 第6回　いじめ問題 毎年のようにいじめによる自殺という痛ましい事件が起こっている。まず、現場の取り組みを知り、いじめ防止対策推進法や第三者委員会等を知り、すべての子どもが安全に学ぶ権利を保障するための手立てを考える。 第7回　個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。 第8回　個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。 第9回　個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。 第10回　罪を犯した少年たち 少年犯罪は増え続けているのか、凶悪化しているのか。罪を犯した少年たちの境遇や、どのような矯正教育を受けているのかについて知る。 第11回　児童虐待の問題 年々増加しているといわれている児童虐待であるが、虐待された子どもを保護して終わりではない。保護されてからも、長い道のりであることを知る。 第12回　日本における外国ルーツの子どもの問題 日本以外にルーツを持つ子どもの問題について知り、多文共生社会を考える。 第13回　幼児期の子ども 待機児童問題など、保育の「質」より「量」に目が向きがちだが、子どもたちに豊かな保育環境を整えるためには「質」の保証が欠かせない。ある園の保育内容を見ることで、子どもの育ちには、何が必要かを考える。 第14回　発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。 第15回　発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。
授業概要	ドキュメンタリー番組等を見ることで、現代の教育問題についてまず現状を知る。興味関心のあるテーマを調べ、パワーポイントを用い２回発表する（中間・最終）。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュース等を通じ、日頃から教育問題、子ども・青少年問題に関心を持つようにする。発表に向けて、自主的に準備を進めておく。
テキスト	毎回、プリントを配布、テキストは使用しない。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ新しい動きを取り上げたい。授業は考える「きっかけ」。現代の様々な教育問題に対する解決法に明確な「正解」はおそらくない。だからこそ各自で考え、発信できるようにしたい。
評価方法	毎回の感想（30%）と発表内容（1回分35%×2回＝70%）で評価する。
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。
備考	

講義科目名称：古文書学（11120）　　授業コード：11121　11122

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択
担当教員			
原　淳一郎（21）　山田　彩起子（22）			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	原組：前半はかな文字の基礎を固める。後半は、近世文書で使われる書体の解読力を身につける。 いわゆる「くずし字」を判読する力を高める。近世から近代を専門とする（しようとする）人向け。 山田組：前半は同じテキスト（かな文字）を使用し、後半はよりかな文字に特化したテキストを利用する。 古代から中世を専門とする（しようとする）人向け。
授業計画	第1回　くずし字解読のためのガイダンス、クラス分け 第2回　江戸名所図会を読む－「かな」の練習（１） 第3回　女今川を読む－「かな」の練習（２） 第4回　ルビを振られた文書を読む－「かな」の練習（３） 第5回　江戸時代の文体に慣れよう－「かな」の練習（４） 第6回　手代の式目を読む－「かな」の練習（５） 第7回　小まとめ 第8回　宗門人別改帳を読む－「漢字」の練習（１） 第9回　交通・旅行に関する文書を読む（１）－「漢字」の練習（２） 第10回　交通・旅行に関する文書を読む（２）－「漢字」の練習（３） 第11回　交通・旅行に関する文書を読む（３）往来手形など－「漢字」の練習（４） 第12回　離縁状を読む 第13回　結婚・離婚に関する文書を読む 第14回　奉公人請状を読む 第15回　借用証文を読む
授業概要	原組（近世文書）、山田組（かな文字）のコピー版を配布し、予習を前提に、解説を加える形で、授業を進める。１回目のガイダンスでクラス分けを行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業の予習・復習をしっかりすること。
テキスト	プリントを配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生にとっては、くずし字を読むのは、骨が折れることと思います。でも、少し辛抱すれば、ちょっとずつ読めるようになっていきます。予習、復習を大切にしてください。これらをしっかりやって授業に臨めば、3問目も解けるようになり、特優がとれるはずです。
評価方法	期末試験。全体で３問。１問目は初見のかな文字。２問目はテキスト終了範囲から１問。３問目はテキスト未修範囲から１問。２問目がほぼ正解できていれば単位取得可能。あとは１問目、３問目の正答率で「特優」から「可」まで判断する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：古文書学演習（11123）　　授業コード：11123

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	１、江戸時代のくずし字を判読できるようになる（技能） ２、古文書を通して、江戸時代の庶民の生活や文化について理解し、説明できるようになる（知識・理解）
授業計画	第1回　ガイダンス 授業のすすめ方と、くずし字に慣れる方法を解説します。 第2回　江戸時代の版本を読む１ー往来物 実際にくずし字に触れて、読んでみましょう。読むコツをつかんで、最初に、江戸時代の人たちが寺子屋で使っていた教材を読みます。 第3回　江戸時代の版本を読む２ー往来物 いろいろな種類の往来物に触れます。 第4回　江戸時代の版本を読む３－江戸の名所記と番付 第5回　江戸時代の版本を読む４－草双紙を眺めよう 第6回　庶民の一生（１）通過儀礼に関する記録を読む 婚礼の献立の記録や子どものお祝いの記録などを読みます 第7回　庶民の一生（２）　宗門人別帳を読む 第8回　庶民の一生（３）離縁状と人別送り状 第9回　庶民の一生（４）若者仲間の記録を読む 第10回　村の事件簿（１）村掟を読む 村で決めた定めごとを読み、江戸時代の村の様子を見てみます 第11回　村の事件簿（２）村の訴訟とさまざまな願書 村の公務にかかわって作成された帳簿から、人相書きや村で起きた事件をとりあげます 第12回　村のくらし（１）商いと金融 村びとの暮らし向きにかかわる文書、領収書や借金証文などを読みます 第13回　村のくらし（２）わざとまじない 第14回　村のくらし（３）楽しみの世界 第15回　まとめ
授業概要	毎回、江戸時代から明治時代初期にかけての、村方に残された古文書を取り上げて、判読していきます。さらに、これらの古文書読解を通して、江戸時代の庶民生活にせまりたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	テキストの古文書は毎日少しずつ予習してきてください。トピックに関連する文献も紹介するので、できるだけお読みください。
テキスト	古文書の写真と古文書解読用テキストを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	くずし字の辞典があったほうが便利です。くずし字辞典は貸し出しできます。講義の最初にくずし字の辞典の種類と使い方について説明します。
評価方法	課題の提出（60%）と期末レポート（40%）で評価します。
参考文献	
備考	古文書学を履修していることが望ましいです。

講義科目名称：日本古代社会の歴史（11131）　　授業コード：11131

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	１・２	２	選択	
担当教員				
吉田　歓				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史における諸問題について講義を行う。基本的には通史的な解説を行いながら進めていくが、テーマ史的な視点から、現在の歴史研究の状況についても解説していく。古代史について理解できる。歴史的な考察ができる。自分で調べたことをまとめることができる。
授業計画	第１回　イントロダクション～日本列島のすがた～ 第２回　倭人の登場 第３回　古代国家の形成 第４回　東アジアの中の日本 第５回　天皇号の成立 第６回　倭国から日本へ 第７回　律令国家支配の成立 第８回　飛鳥の様子 第９回　藤原京を探す 第１０回　藤原京の復元 第１１回　律令国家と地方 第１２回　律令国家と文化 第１３回　平安遷都 第１４回　古代の東北地方 第１５回　古代国家と中世社会
授業概要	古代史に関係するテーマを詳しく解説する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	とくに使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	政治史だけにかたよらず、文化史など本当にいろいろな分野にも目を配りながら進めていくので、何か一つでも興味を持てるテーマを見つけてもらいたい。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本中世社会の歴史（11141）　　授業コード：11141

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	１・２	２	選択	
担当教員				
山田　彩起子				
同時開講日本史概説２※	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本中世社会への理解を深める。
授業計画	第1回　中世という時代 第2回　院政の成立 第3回　武士の台頭 第4回　平家政権の興亡 第5回　鎌倉幕府の成立 第6回　鎌倉幕府支配体制の変遷 第7回　南北朝内乱と室町幕府の成立 第8回　足利義満 第9回　応仁・文明の乱 第10回　戦国時代の始まり 第11回　織田信長 第12回　中世の寺院勢力 第13回　中世の男色 第14回　中世の上杉家 第15回　上杉本洛中洛外図屏風
授業概要	中世すなわち平安時代後期～戦国時代について、まずは通史を説明し、その後で幾つかのテーマをとりあげます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義後、レジュメに提示した参考文献を読んで、理解を深めて下さい。
テキスト	毎回レジュメを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「中学や高校の授業で習った内容と違う」と思う場面が度々あると思います。近年の学説に触れられるのが大学の授業の醍醐味ですので、新しい知識・情報をどんどん吸収して下さい。
評価方法	期末レポート
参考文献	毎回、レジュメに参考文献を提示します。
備考	

講義科目名称：日本近世社会の歴史（11151）　　授業コード：11151

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ　日本近世社会（江戸時代）の歴史を、世界の諸地域との関わりのなかでとらえる。 到達目標　日本の近世社会の特質を、他の時代や諸地域と比較して理解し、説明することができる。
授業計画	第1回　ガイダンス　日本近世史とは何か 歴史学上の地域区分や時代区分について説明し、日本や近世といった枠組みを問い直します。 第2回　世界のなかの近世日本（１）　東アジアのなかの日本 日本列島の歴史を、東アジアの広がりのなかで考えてみます。 第3回　世界のなかの近世日本（２）　北方の交易世界 蝦夷地を北東アジアや北太平洋地域のなかに位置づけ、日本列島の歴史を複線的にとらえ直します。 第4回　世界のなかの近世日本（３）　江戸時代の対外関係　国境はどのようにつくられるのか 江戸時代の日本をとりまく国際的な環境について検討します。 第5回　近世の支配体制（１）　統治のしくみと社会制度 江戸時代の政治体制と、それを支えていた社会制度について説明します。 第6回　近世の支配体制（２）　領主支配の特質 中世の武家政権と近世の武家政権では、領主の支配のあり方にどのような違いがみられたのか、江戸時代の領主と百姓の関係はどのようなものだったのか、について説明します。 第7回　近世の支配体制（３）　統治の理念 なぜ、江戸幕府は約260年もの長い期間にわたって支配を続けることができたのか、検討します。 第8回　近世の文化と思想（１）　文字の普及と読み書き能力 江戸時代の社会の特質を、文字の普及や役割という観点からとらえ直します。 第9回　近世の文化と思想（２）　文字の習得と江戸時代の教育 江戸時代の庶民教育とその意義について考察します。 第10回　近世の文化と思想（３）　百姓一揆の思想 江戸時代の百姓たちの法意識、社会規範について検討します。 第11回　中間まとめ 第12回　近世の村と町（１）　江戸時代の村共同体 江戸時代の人びとは、自分たちの生活と生命をどのように守っていたのでしょうか。命を守る仕組みの発展という側面から、江戸時代の社会を見直します。 第13回　近世の村と町（２）　市場経済の発達 江戸時代の人びとは、どのような自然環境の中で生きていたのでしょうか。江戸時代の人びとの自然とのかかわり方、そのなかでの経済の発展について検討します。 第14回　近世の村と町（３）　国訴と郡中議定－近世後期の地域社会 江戸時代の村の自治が、近代に向けてどのように展開していったか、考察します。 第15回　近世の特質　まとめ
授業概要	日本近世史の諸問題について、講義します。通史的な概説や、政治史・経済史・文化史といった、分野ごとの解説は行わず、研究上の争点・論点やトピックを取り上げて講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。資料はTeamsのファイルに入れます。あらかじめダウンロードしてください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回、授業後にコメントシートを提出してもらいます。そのうち５回は、授業の理解度を確認するための問いに答えてもらう形式となります。コメントシートに記載する内容の詳細は、授業内のほか、Teams内で指示することもあります。 質問等は、LINEまたはメールでも受け付けます。積極的に質問してください。
評価方法	期末レポート４０％、コメントシートの記述内容６０％（10%×５回の理解度確認シート＋その他のコメントシートの提出枚数） 期末レポートでは、日本の近世社会の特質を把握し、適切に説明できているかどうかを評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本文化史（11160）　　授業コード：11160

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択
担当教員			
原　淳一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業の目的は3つある。第1に、歴史に親しんでもらうこと、第2に、文化史とはいかなる学問なのか知ってもらうこと。第3に、自分達が生まれた「日本列島」(「日本」とは限らない)がいかなる歴史を歩んできたかを認識してもらうこと、またはその手がかりを与えることである。本授業ではあまり時代にこだわらず、現代社会とつながる問題意識で多角的な歴史像を紹介したい。歴史学は記憶の学問ではない。考える学問である。ひとつの具体的事実が、どのような社会的背景から引き起こされたのか、私の力の及ぶ限り説明していきたい。
授業計画	第1回　史学とは？文化史とは？民俗学とは？文化人類学とは？ 第2回　歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観） 第3回　歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観） 第4回　稲作の起源と日本人起源論 第5回　柳田國男と日本民俗学（ビデオ） 第6回　いくつもの日本（東と西の日本文化） 第7回　いくつもの日本（北と南の日本文化） 第8回　日本国の成立と「日本人」 第9回　伊波普猷と沖縄学（ビデオ） 第10回　被差別と伝統文化 第11回　都市と農村（太閤検地と徳川吉宗・柳田國男・柳宗悦） 第12回　国家と統計・調査（『菊と刀』、太平洋戦争史、外国人から見た日本、西洋と日本の差異） 第13回　日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』･･･） 第14回　日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』･･･） 第15回　日本人論の展開（『代表的日本人』、『茶の本』・『東洋の理想』、『武士道』）
授業概要	日本文化について様々に思考してきた先人達の書籍を紹介しながら、①日本人と日本国がいかに多様であるか、ということ、②現在の我々にとって常識であることが、必ずしも過去には常識ではないこと、などを知って貰い、受講生各自が、③日本とは何か、日本人とは何か、日本の文化とは何か、ということについて多様な視点から思索してもらう機会とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、積極的に情報収集し、日本人、日本国、日本の文化について主体的に考えること。
テキスト	すべてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できうる限り色々な著書を読んだり原史料に触れる機会をつくりたいと思います。歴史家、思想家、宗教家などの主張を紹介した際には、できうる限りその著書（現代語訳でもよいので）を読んでください。ある地域の話をする場合にはその場所をしっかりと認識してください。固有名詞や専門用語を登場させる場合には耳だけで聞き流さないでください。ちょっと地図帳を開いたりインターネットで調べるだけでもきっと違います。
評価方法	数回(6回程度)の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。 約6回中提出回数が、3回以上（可）、5回以上（良）、6回以上（優）を目安としますが、内容によって1段階上下させることがあります。これは、ただ名前を書いて提出する人、あるいは1行程度しか書かない人と、しっかり考えて書いてくれた人と差をつけるための措置です。

参考文献	佐々木高明『日本文化の多様性』（小学館、2009）をはじめとして、様々な文献、研究を紹介します。興味を抱いたものは是非図書館で手に取ってみてください。
備考	

講義科目名称：視覚文化論（11171）　　授業コード：11171

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択
担当教員			
小池　隆太			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業のテーマ及び到達目標は以下の通り： １．マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を身につけることができる。 ２．表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解することができる。 ３．上述の方法論を学際的に統合した上での作品分析を行うことができる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　マンガ／アニメと教育 第3回　マンガ／アニメの歴史（論） 第4回　マンガと文学・ライトノベル 第5回　マンガ表現論とその「歴史」 第6回　キャラクター論 第7回　マンガ／アニメとジェンダー 第8回　映像・芸術としてのマンガ 第9回　マンガ／アニメの物語論 第10回　産業としてのマンガ／アニメ 第11回　同人誌と同人文化 第12回　マンガ／アニメと観光 第13回　マンガとミュージアム 第14回　マンガ／アニメの海外受容 第15回　まとめ　マンガ／アニメ研究における学際性
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、実際の作品分析をワークショップ形式で行います。 授業に際してはテキストの購入が必須になります。購入方法については最初の授業で説明します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題５０％、期末レポート５０％。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門［増補改訂版］　アニメを究める９つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門［応用編］　アニメを究める１１のコツ』、現代書館、2018年